

令和2年MM教育実施状況アンケート調査 結果

交通エコモ財団では、平成28年度より自治体における交通担当部署を対象としたアンケート調査を実施し、各地における交通環境学習の実態調査を実施している。また、平成30年度からは教育委員会向けにもアンケート調査を実施している。

令和2年度も同様に自治体及び教育委員会向けのアンケート調査を実施した。

1.1 自治体向けアンケート

1.1.1 調査の目的

全国の自治体における交通環境学習の継続的な実施状況及び交通環境学習を普及していく上での課題把握を目的とする。

1.1.2 調査の設計

- 調査対象 都道府県及び市（東京23区含む）
- 調査票本数 862件（47都道府県、792市、東京23区）
- 調査方法 配布：郵送配布
回収：選択方式（インターネット、FAX、メール）

※メール回答の場合は、MM学習ポータルサイトからダウンロードできる電子データの調査票を用いる。より回答が簡易にできるよう、配布する電子データの調査票はエクセル形式とした。

- 調査時期 令和2年10月12日（月）～令和2年10月30日（金）

1.1.3 調査票の配布・回収の状況

- 配布件数 862件
- 有効回収件数（率） 411件（47.8%）

表 配布件数・有効回収件数

	配布件数 (件)	有効回答	
		回収数(件)	構成比(%)
インターネット	862	282	68.6
FAX		62	15.1
メール		67	16.3
その他		0	0.0
総計	862	411	100.0

＜参考＞過年度調査の回収方法と回収率 ※調査方法、配布方法は今年度調査と同様

	令和元年度調査		平成 30 年度調査		平成 29 年度調査	
	回収数 (件)	構成比 (%)	回収数 (件)	構成比 (%)	回収数 (件)	構成比 (%)
インターネット	254	59.3	265	61.3	120	24.0
郵送	—	—	—	—	321	64.2
FAX	87	20.3	101	23.4	26	5.2
メール	87	20.3	65	15.0	33	6.6
その他	0	0	1	0.2	0	0.0
有効回収件数	428 件 回収率 49.8%	100.0	432 件 回収率 50.2%	100.0	500 件 回収率 58.1%	100.0

1.1.4 調査項目及び調査票の設計

(1) 調査対象

アンケート調査票は、昨年度と同様、都道府県と市でA、Bの2種類に区別し、さらに、回答のしやすさを考慮して、昨年度調査での交通環境学習の取組みの有無により、質問の内容を下記の「内容1」、「内容2」にそれぞれ区分した。そのため、全部で4種類の調査票となっている。

内容1：令和元年度調査で交通環境学習の取組みが確認された自治体

内容2：令和元年度調査で交通環境学習の取組みが確認されなかった自治体

(回答があったが未実施、未回答)

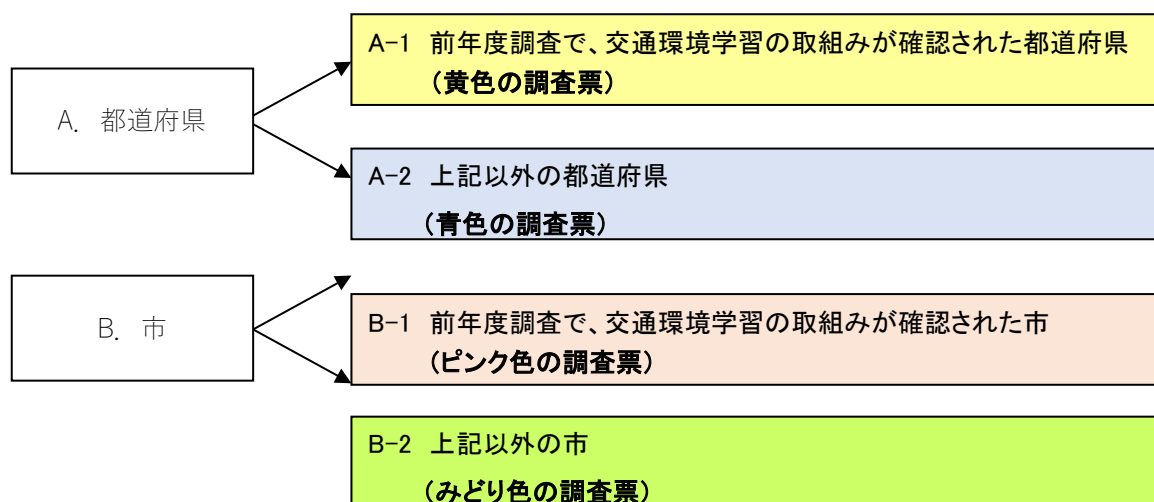


図 アンケートの構成

令和元年度調査の結果から、各調査票は以下の通り配布した。

表 各アンケート調査票の配布件数

令和元年度調査 問1（※）に対する選択肢	都道府県		市区	
	R01 回答数	調査票	R01 回答数	調査票
1. 実施した	18 件	A1 (18 枚)	156 件	B1 (156 枚)
2. 過去に実施したことはあるが、 昨年度は実施しなかった	1 件	A2 (29 枚)	53 件	B2 (657 枚)
3. これまで実施したことがない	6 件		194 件	
不明・無回答	0 件		0 件	
未回収	22 件		410 件	
合計	47 件	47 枚	813 件	813 枚

（※）問1：貴自治体では昨年度（平成30年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？

(2) 調査項目

アンケート調査項目は、昨年度と同様の内容に加えて、新型コロナウイルスに関連した設問、エコモ財団HPに掲載されている資料に関する設問を追加した。

①新型コロナウイルスの影響に関連した設問

- ・今年度の取り組みに関するコロナの影響
- ・今年度実施する場合の理由

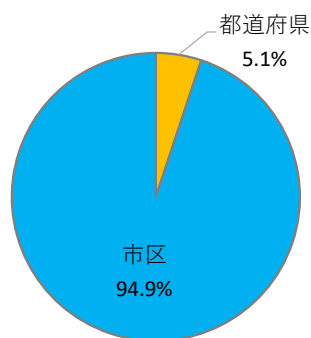
②エコモ財団HPからダウンロードできる資料に関する設問

- ・手引きの認知度・改善のための意見収集
- ・教材・事例の認知度・改善のための意見収集

1.1.5 調査結果

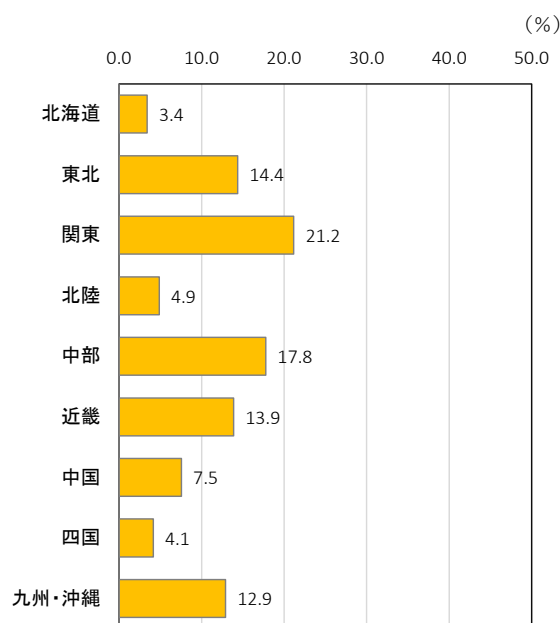
■回答者について

- 「都道府県」から 21 件（構成比 5.1%）、「市区」から 390 件（構成比 94.9%）の回答を得た。
- 回答票の構成比を地域別に見ると、「関東」が 21.2%と最も多く、次いで「中部」が 17.8%となっている。
- 人口規模別に見ると、「10 万人未満」が 55.2%と最も多く、次いで「10 万人以上 20 万人未満」が 19.0%、「20 万人以上 50 万人未満」が 15.1%となっている。



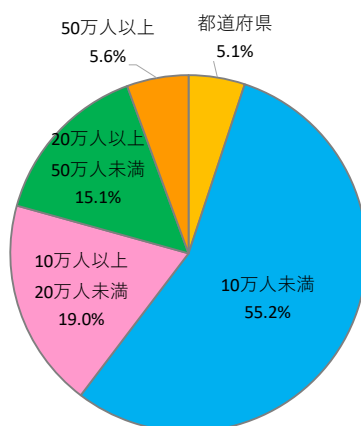
	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	21	5.1	25	5.8
市区	390	94.9	403	94.2
合計	411	100.0	428	100.0

図 回答自治体



	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
北海道	14	3.4	16	3.7
東北	59	14.4	54	12.6
関東	87	21.2	91	21.3
北陸	20	4.9	25	5.8
中部	73	17.8	88	20.6
近畿	57	13.9	57	13.3
中国	31	7.5	25	5.8
四国	17	4.1	14	3.3
九州・沖縄	53	12.9	58	13.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	411	100.0	428	100.0

図 地方種別



	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	21	5.1	25	5.8
10 万人未満	227	55.2	249	58.2
10 万人以上 20 万人未満	78	19.0	77	18.0
20 万人以上 50 万人未満	62	15.1	58	13.6
50 万人以上	23	5.6	19	4.4
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	411	100.0	428	100.0

図 人口規模別

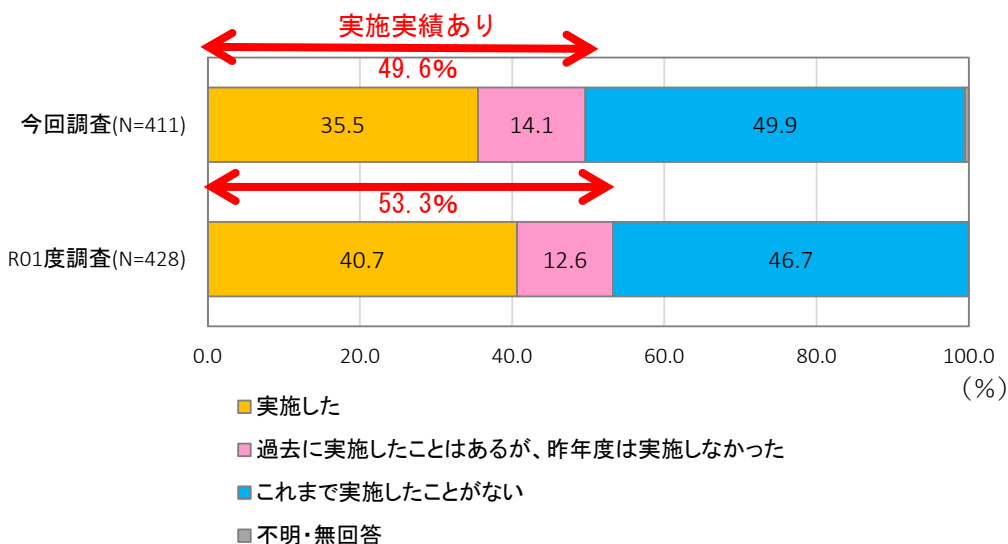
(1) 「交通環境学習」の実施状況

1) 「交通環境学習」の実施

① 「交通環境学習」の実施

問1 貴自治体では昨年度（令和元年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

- 交通環境学習の実施状況は、「実施した」が35.5%で、「過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった」（14.1%）を含めると、今まで実施実績がある自治体は49.6%となっている。
- 前年度調査と比較すると、実施実績のある自治体の割合は3.7ポイント減少している。
- 地方別に見ると、半数以上の自治体に実施実績があるのは北海道（64.3%）、北陸（55.0%）、中部（58.9%）、近畿（52.6%）、中国（64.5%）である。
- 都道府県の実施率は61.9%、市区の実施率は49.0%となっており、市区について人口規模別にみると、人口規模が大きいほど実施率が高く、50万人以上の自治体では73.9%となっている。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
実施した	146	35.5	174	40.7	178	41.2
過去に実施したことはあるが、 昨年度は実施しなかった	58	14.1	54	12.6	43	10.0
これまで実施したことがない	205	49.9	200	46.7	211	48.8
不明・無回答	2	0.5	0	0.0	0	0.0
合計	411	100.0	428	100.0	432	100.0
実施したことがある	204	49.6	228	53.3	221	51.2

図「交通環境学習」の実施

<参考>調査票ごとの回答件数

	合計		A-1		A-2		B-1		B-2	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
実施した	146	35.5	7	63.6	3	30.0	83	82.2	53	18.3
過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった	58	14.1	3	27.3	0	0.0	18	17.8	37	12.8
これまで実施したことがない	205	49.9	0	0.0	7	70.0	0	0.0	198	68.5
不明・無回答	2	0.5	1	9.1	0	0.0	0	0.0	1	0.3
合計	411	100.0	11	100.0	10	100.0	101	100.0	289	100.0
実施したことがある	204	49.6	10	90.9	3	30.0	101	100.0	90	31.1

A-1 前年度調査で、交通環境学習の取組みが確認された都道府県

A-2 上記以外の都道府県

B-1 前年度調査で、交通環境学習の取組みが確認された市区

B-2 上記以外の市区

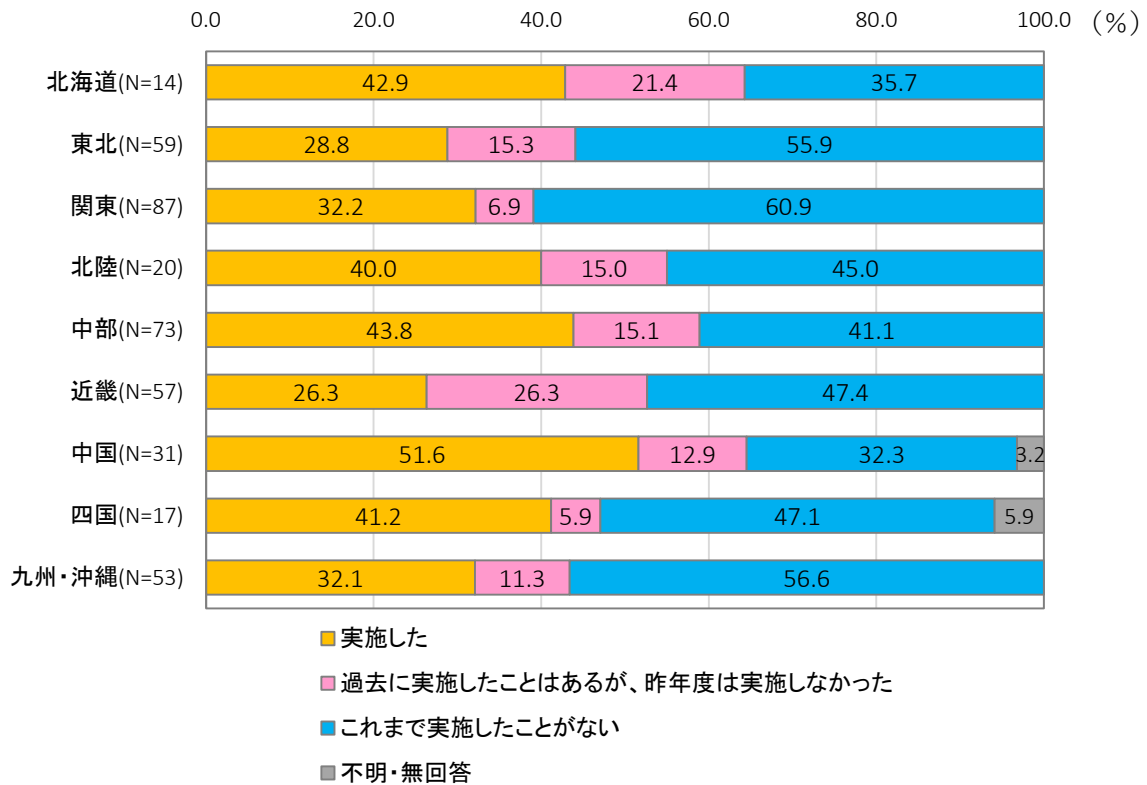


図 地方別「交通環境学習」の実施状況

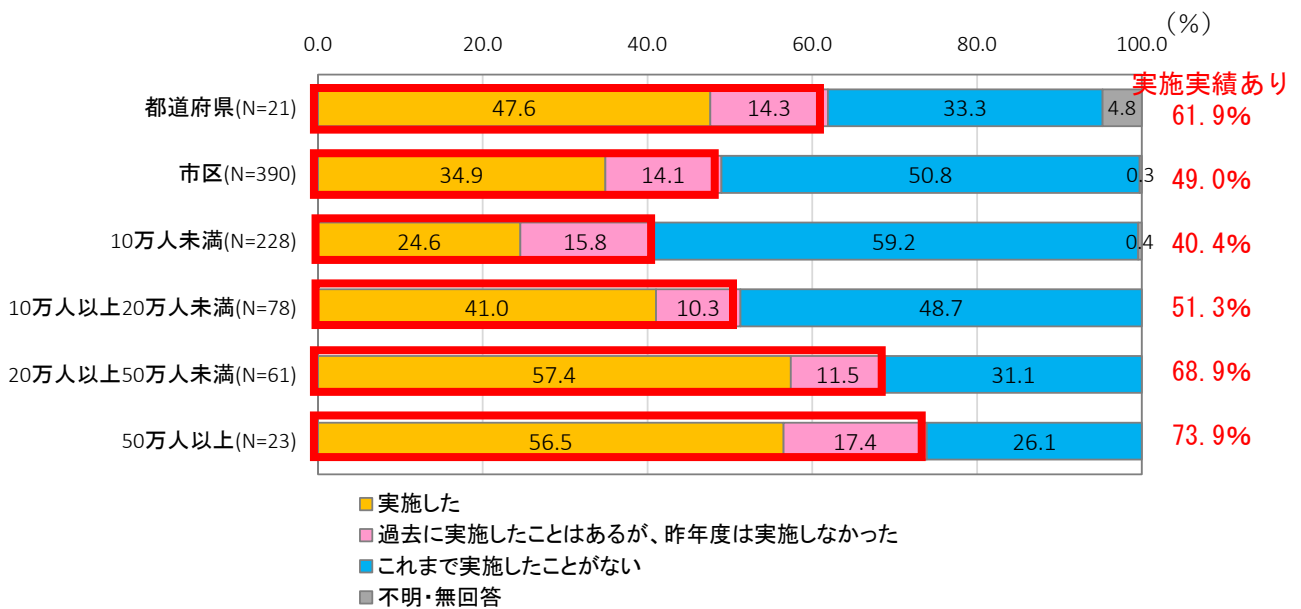


図 人口規模別「交通環境学習」の実施状況

② 「交通環境学習」を継続的に実施できる理由

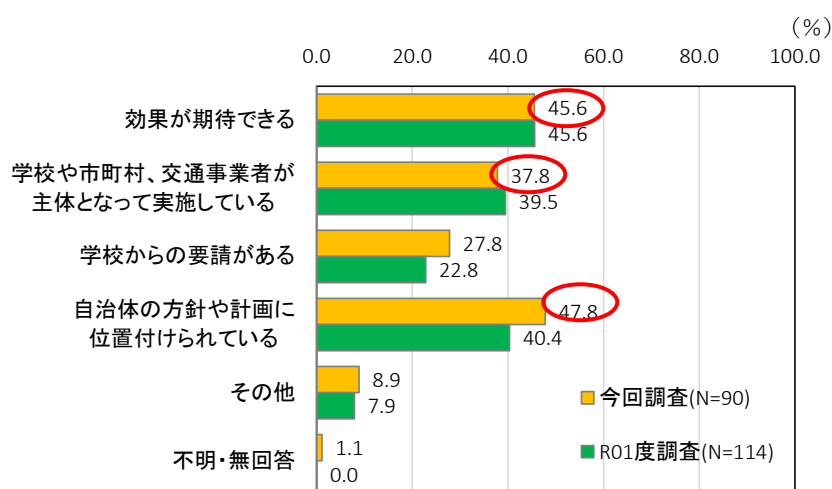
(前年度調査で交通環境学習の実施が確認された自治体のみ)の設問:A-1・B-1 調査票)

(問1で「1」(実施した)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？(いくつでも)

○前年度調査で実施が確認された自治体に、交通環境学習を継続的に実施できる理由をお聞きしたところ、「自治体の方針や計画に位置づけられている」が47.8%と最も高く、次いで「効果が期待できる」が45.6%、「学校や市町村、交通事業者が主体となって実施している」が37.8%となっている。「学校からの要請がある」は27.8%であった。

自治体の方針や計画に位置づけられている自治体の割合が昨年度に比べ高くなっているのが特徴である。また、期待する効果の主な内容としては、「公共交通の利用促進・利用者増」が最も多かった。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)	回答数(件)	構成比(%)
効果が期待できる	41	45.6	52	45.6	41	41.0
学校や市町村、交通事業者が主体となって実施している	34	37.8	45	39.5	45	45.0
学校からの要請がある	25	27.8	26	22.8	30	30.0
自治体の方針や計画に位置づけられている	43	47.8	46	40.4	44	44.0
その他	8	8.9	9	7.9	11	11.0
不明・無回答	1	1.1	0	0.0	1	1.0
合計(回答対象件数)	90	100.0	114	100.0	100	100.0

図 「交通環境学習」を継続的に実施できる理由

■ 「1. 期待する効果」の主な内容

分類項目	件数(件)
公共交通の利用促進・利用者増	22
公共交通のことを知ってもらう ・興味を持ってもらう	13
利用方法の周知・マナーの向上	1
エコや環境問題に対する意識の啓発	2

■ 「5. その他」の主な内容

- ・学校や地元団体、交通事業者が意欲的・協力的である(4件)
- ・交通安全教室を併せて実施している
- ・補助金等で予算が確保できた
- ・継続的に取り組むことによって効果がでると考えている

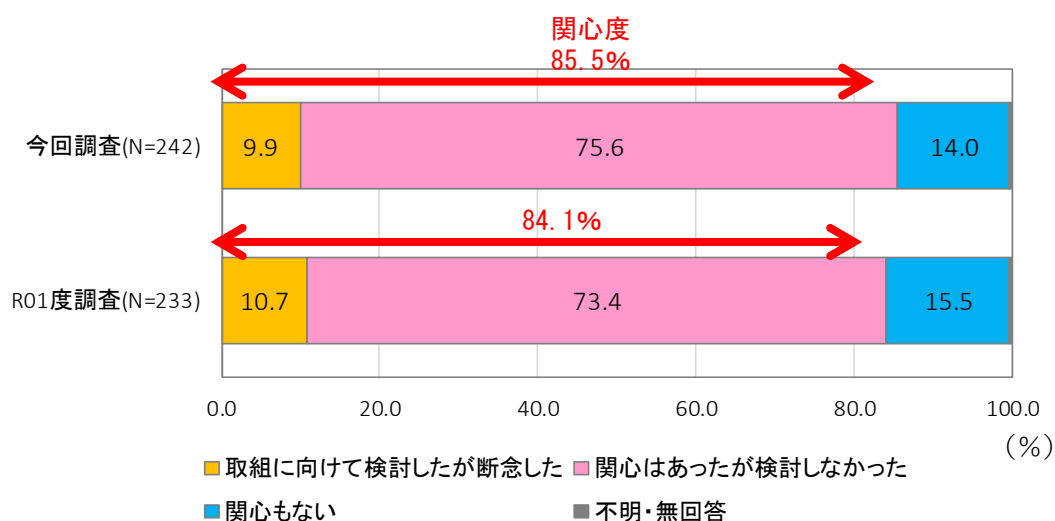
③ 「交通環境学習」に取り組む意向

(前年度調査で交通環境学習の実施が確認されなかった自治体のみへの設問:A-2・B-2 調査票)

(問1で「2」(過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった)「3」(これまで実施したことがない)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「交通環境学習」に取り組む意向はありましたか? (1つに○)

○実施しなかった自治体に、交通環境学習に取り組む意向をお聞きしたところ、「関心はあったが検討しなかった」が75.6%と最も多く、次いで「関心もない」が14.0%、「取組に向けて検討したが断念した」は9.9%となっている。「取組に向けて検討したが断念した」と「関心はあったが検討しなかった」をあわせると、関心のある自治体は85.5%と8割を超えており、昨年度調査より1.4ポイント増加している。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
取組に向けて検討したが断念した	24	9.9	25	10.7	17	7.2
関心はあったが検討しなかった	183	75.6	171	73.4	180	76.6
関心もない	34	14.0	36	15.5	38	16.2
不明・無回答	1	0.4	1	0.4	0	0.0
合計(回答対象件数)	242	100.0	233	100.0	235	100.0
関心がある	207	85.5	196	84.1	197	83.8

図 「交通環境学習」に取り組む意向

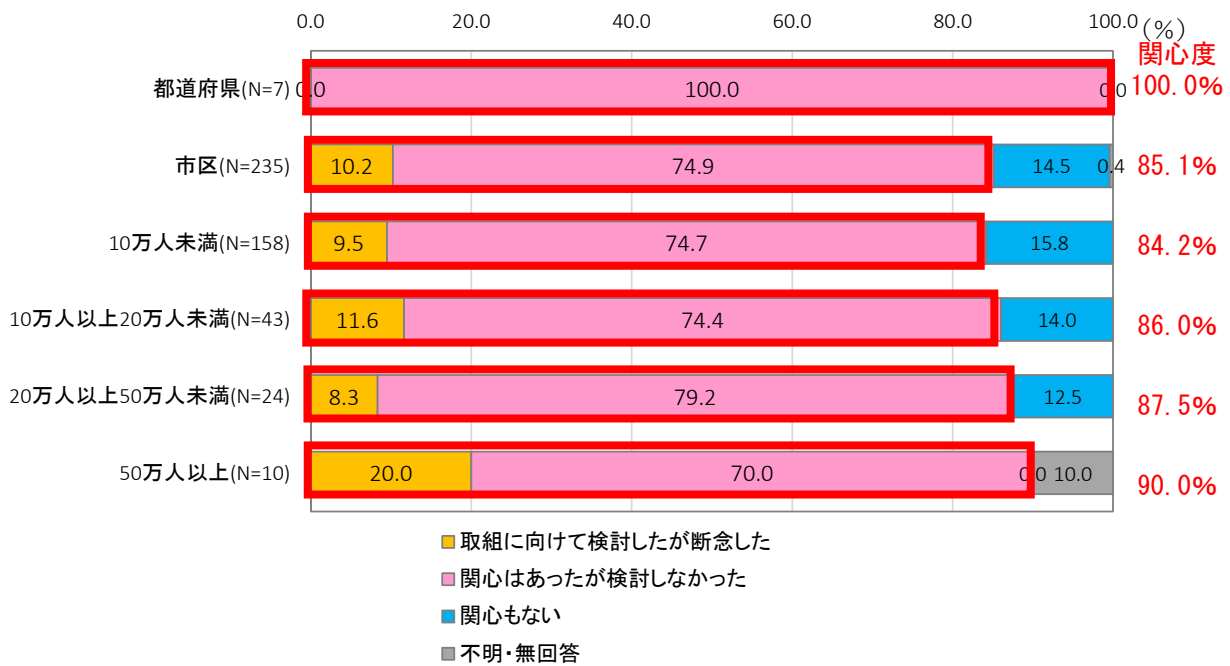


図 自治体規模別「交通環境学習」に取り組む意向

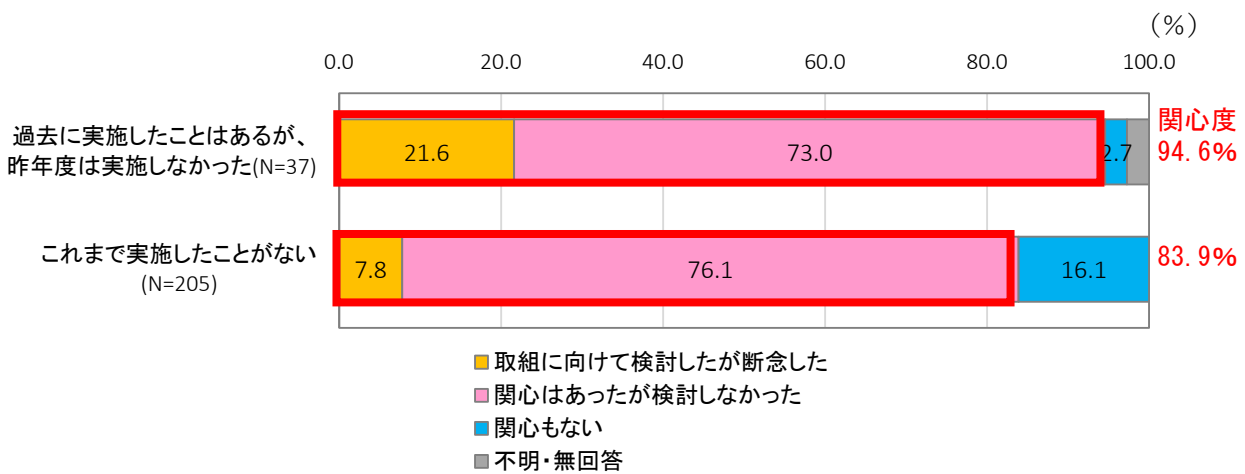


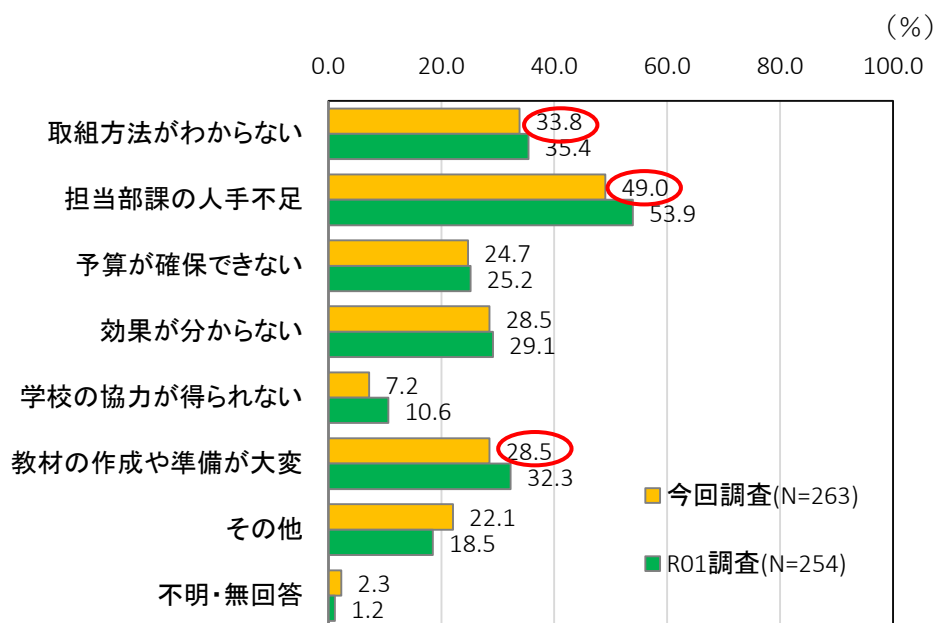
図 実施状況別「交通環境学習」に取り組む意向

④実施しなかった理由

(問1で「2」(過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった)「3」(これまで実施したことがない)とお答えの方にお伺いします。)

副問 「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？(いくつでも)

- 「担当部課の人手不足」が49.0%と回答者の半数以上を占め、次いで「取組方法がわからない」が33.8%、「教材の作成や準備が大変」が28.5%、「効果がわからない」が28.5%、「予算が確保できない」が24.7%と続く。また、その他の意見として、「悪天候、新型コロナウイルスの影響(休校、イベントの中止)」も8件挙げられた。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
取組方法がわからない	89	33.8	90	35.4	97	38.2
担当部課の人手不足	129	49.0	137	53.9	146	57.5
予算が確保できない	65	24.7	64	25.2	75	29.5
効果が分らない	75	28.5	74	29.1	80	31.5
学校の協力が得られない	19	7.2	27	10.6	21	8.3
教材の作成や準備が大変	75	28.5	82	32.3	78	30.7
その他	58	18.3	47	18.5	41	16.1
不明・無回答	6	5.7	3	1.2	0	0.0
合計(回答対象件数)	263	100.0	254	100.0	254	100.0

図 実施しなかった理由

■ 「7. その他」の主な意見

分類項目	件数(件)
学校からの依頼、要望がなかった	12
他の実施主体(学校、交通事業者)が取り組んでいる	12
悪天候、新型コロナウイルスの影響(休校、イベントの中止)	8
関係機関との調整がうまくいかなかった	6
必要性を感じていない・実施の検討をしていない	5
高齢者・就学前園児を対象とした学習を実施している	3
翌年度以降の取組を検討をしていた	2
自治体の公共交通に関する計画にない・計画を策定中	2
他に優先する業務がある	1
その他	6

○人口規模に関わらず、「担当部課の人手不足」が多く挙げられている。50万人以上の市区では、「効果が分からない」が最も多く挙げられており、「取組方法がわからない」も「担当課の人手不足」と同程度となっている。

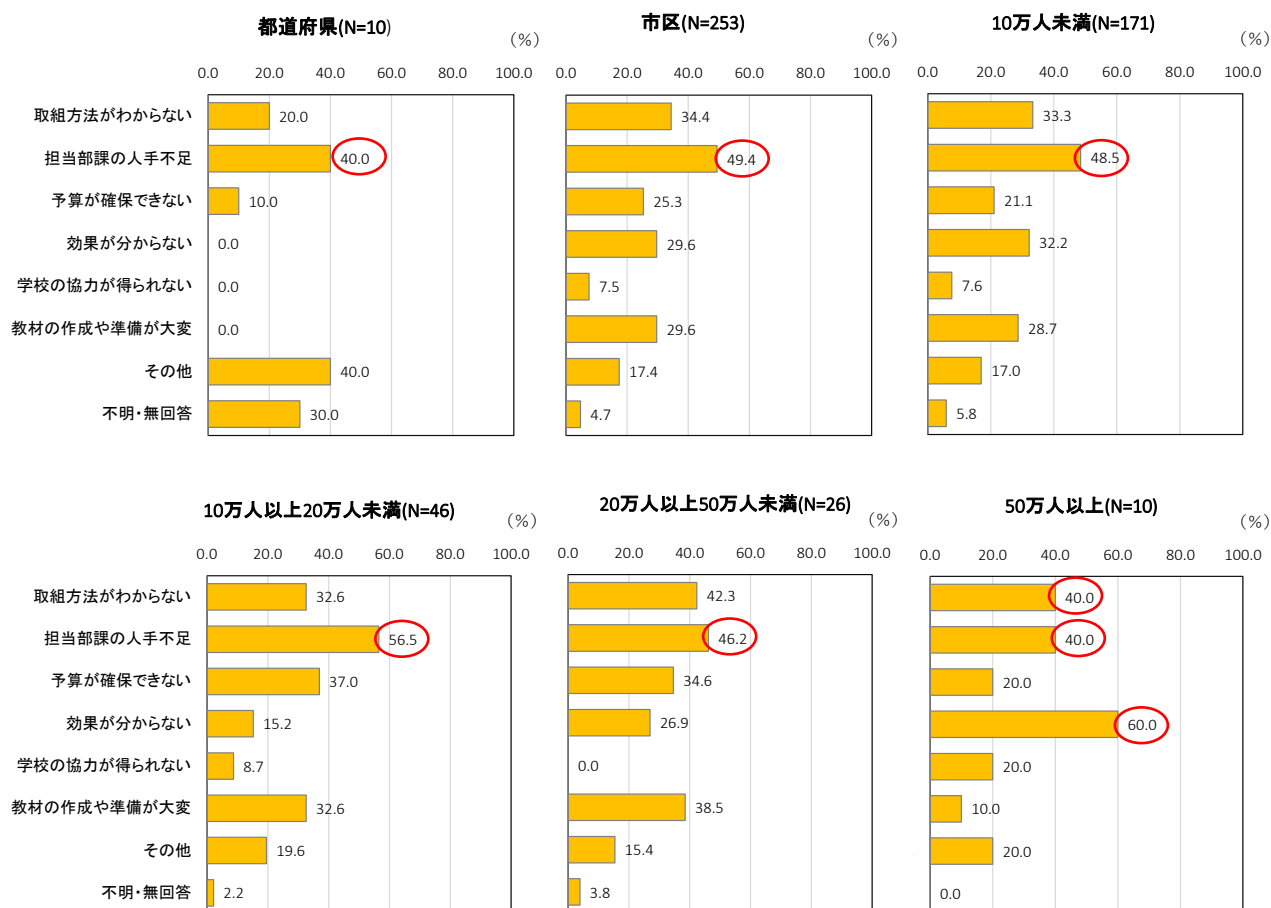


図 人口規模別 実施しなかった理由

【取組む意向別 実施しなかった理由】

- いずれの団体も「担当部課の人手不足」が多く挙げられていた。
- 関心のない自治体では、「効果がわからない」も多くなっている。

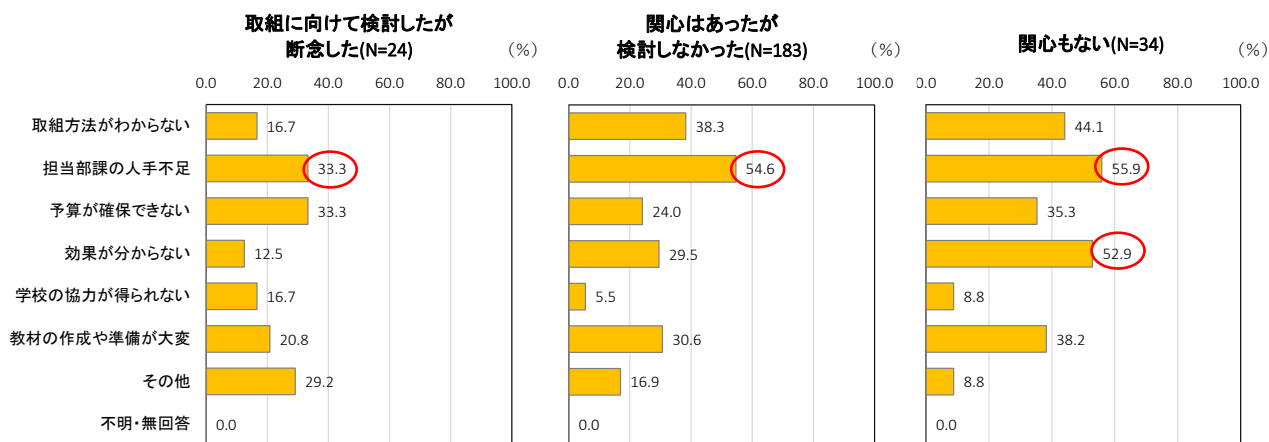


図 取組意向別 実施しなかった理由

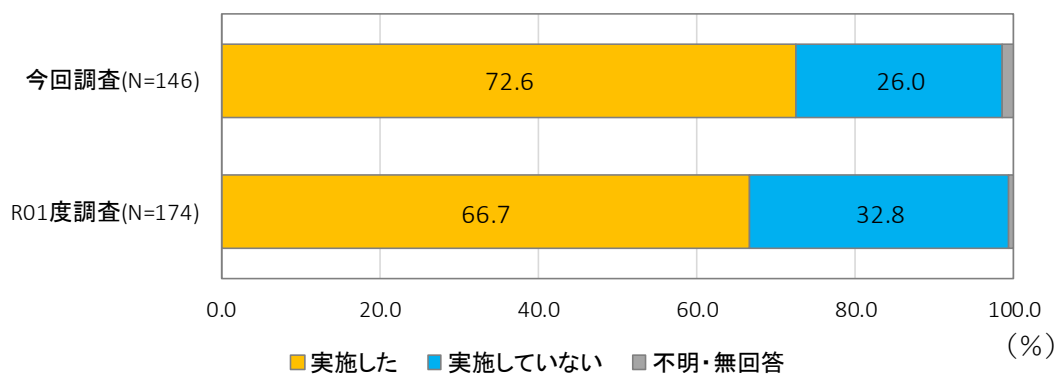
2) 交通環境学習の実施方法

(問1で「実施した」と回答した自治体のみ)

①授業の一環としての「交通環境学習」の実施

問2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします。
 (1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

○学校の授業の一環として「実施した」が72.6%を占める。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
実施した	106	72.6	116	66.7	123	69.1
実施していない	38	26.0	57	32.8	55	30.9
不明・無回答	2	1.4	1	0.6	0	0.0
合計(回答対象件数)	146	100.0	174	100.0	178	100.0

図 「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

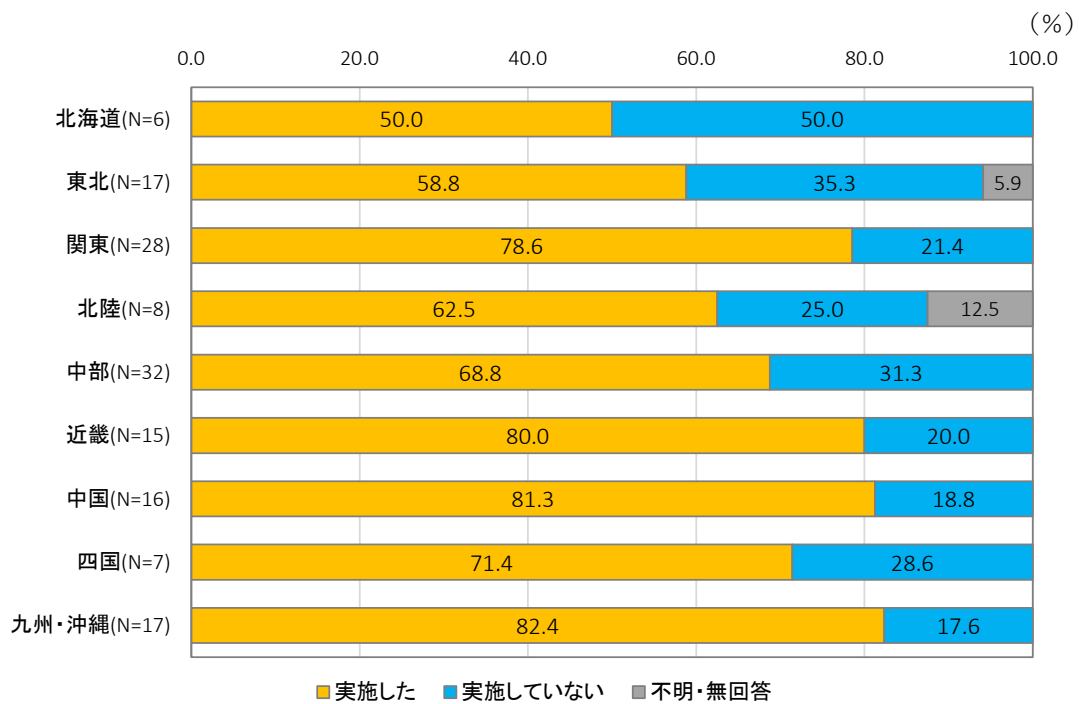


図 地方別「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

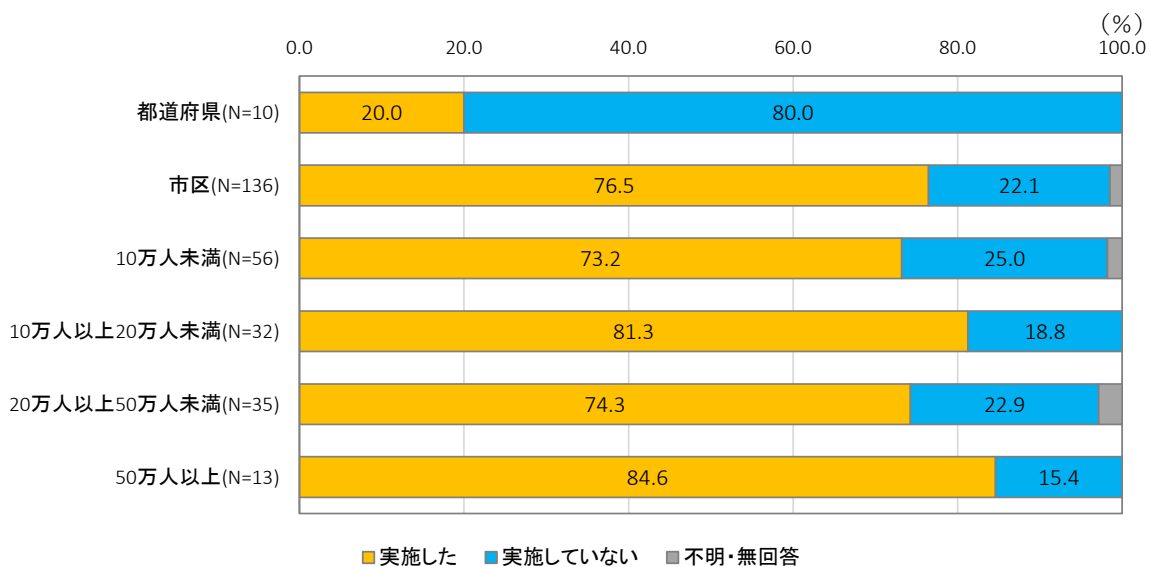


図 人口規模別「交通環境学習」の学校の授業の一環としての実施

②授業の実施主体

((1) で「1」(学校の授業の一環として実施した)とお答えの方にお伺いします。)

副問 授業の実施主体をお答えください。(いくつでも)

○「出前講座として学校からの依頼に対応」が43.4%と最も多く、次いで「貴自治体が学校に依頼して実施」が38.7%、「国や市町村、交通事業者等が主体となり実施」が17.0%の順となっている。

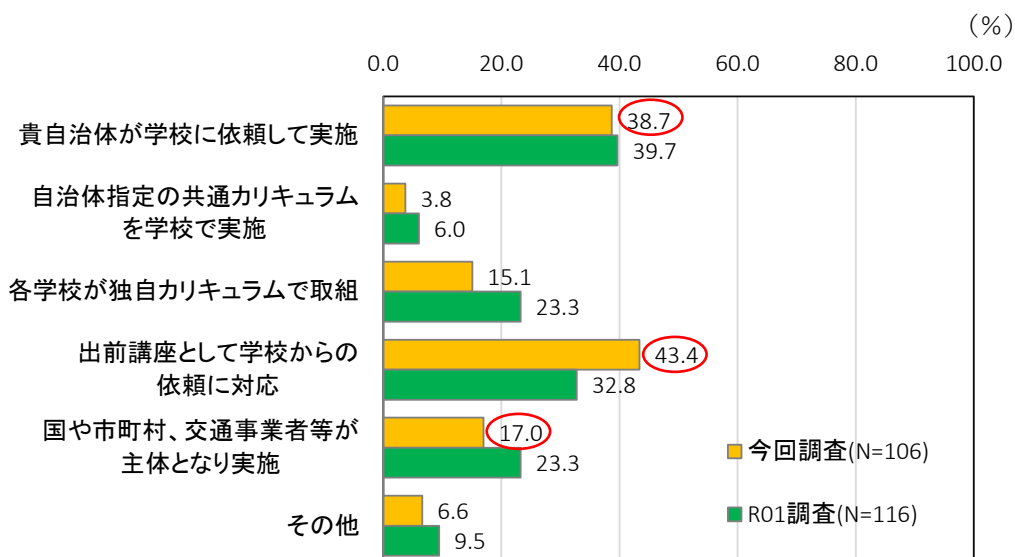


図 授業の実施主体

	今回調査		R01 度調査		H30 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
貴自治体が学校に依頼して実施	41	38.7	46	39.7	48	39.0
自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施	4	3.8	7	6.0	3	2.4
各学校が独自カリキュラムで取組	16	15.1	27	23.3	30	24.4
出前講座として学校からの依頼に対応	46	43.4	38	32.8	36	29.3
国や市町村、交通事業者等が主体となり実施	18	17.0	27	23.3	27	22.0
その他	7	6.6	11	9.5	11	8.9
不明・無回答	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合計(回答対象件数)	106	100.0	116	100.0	123	100.0

■「その他」の内容

- ・学校からの応募に基づき自治体が主体となって実施(4件)
- ・出前講座として民間団体からの依頼に対応
- ・環境に関する課外授業の一環として実施
- ・職場体験として学校からの依頼に対応

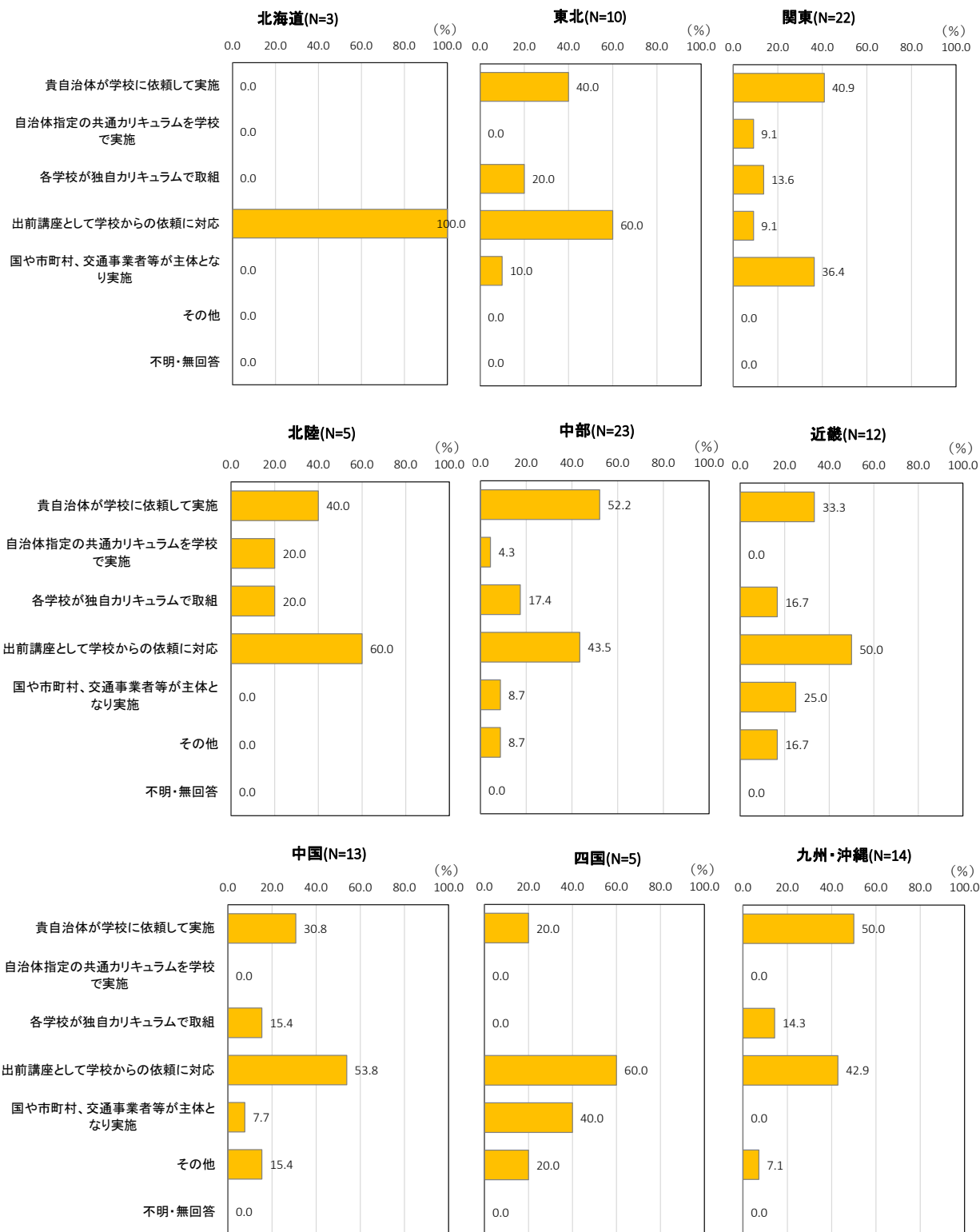


図 地方別 授業の実施主体（複数回答）

③授業以外の実施（自由記述）

(2) 学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

○学校の授業以外での実施形式に関する回答は56件あった。

○最も多かったのは「バスまつり、イベント」で37件あった。

※一つの回答につき複数の分類としているため、件数とは一致しない。

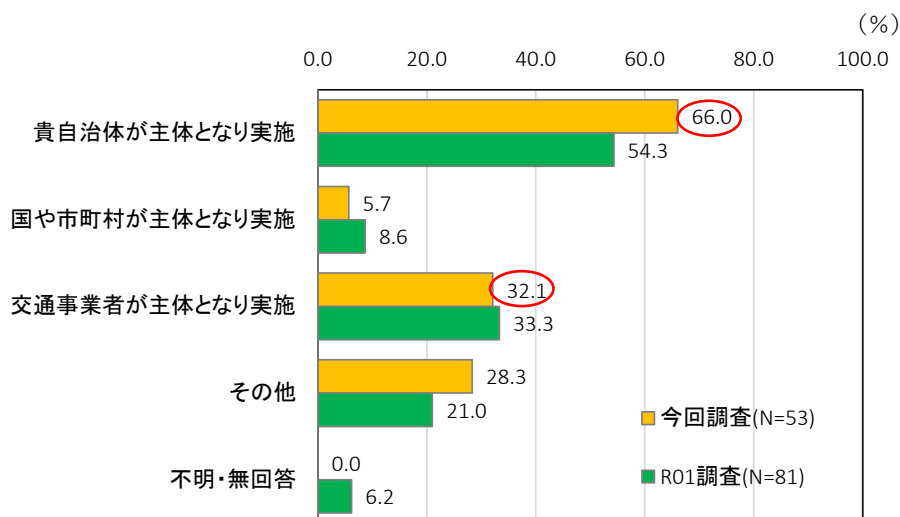
表 学校の授業以外での実施形式

分類項目	件数(件)
バスまつり、イベント	37
放課後や休日、長期休暇を利用した学習	4
学校以外(地域や幼稚園、保育園)への出前講座	3
高齢者を対象とした生涯学習、出前講座	3
ノーマイカーウィーク・利用促進キャンペーンの実施	3
コンテスト開催・掲示物	2
その他	4

④授業以外の実施主体

（（2）（学校の授業以外での形式）でご回答いただいた方にお伺いします。）
 副問 （2）でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。（いくつでも）

○「貴自治体が主体となり実施」が66.0%と最も多く、次いで「交通事業者が主体となり実施」が32.1%の順となっている。



	今回調査		R01度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
貴自治体が主体となり実施	35	64.8	44	54.3
国や市町村が主体となり実施	3	5.6	7	8.6
交通事業者が主体となり実施	17	31.5	27	33.3
その他	15	27.8	17	21.0
不明・無回答	0	0.0	5	6.2
合計（回答対象件数）	53	100.0	81	100.0

図 授業以外の実施主体

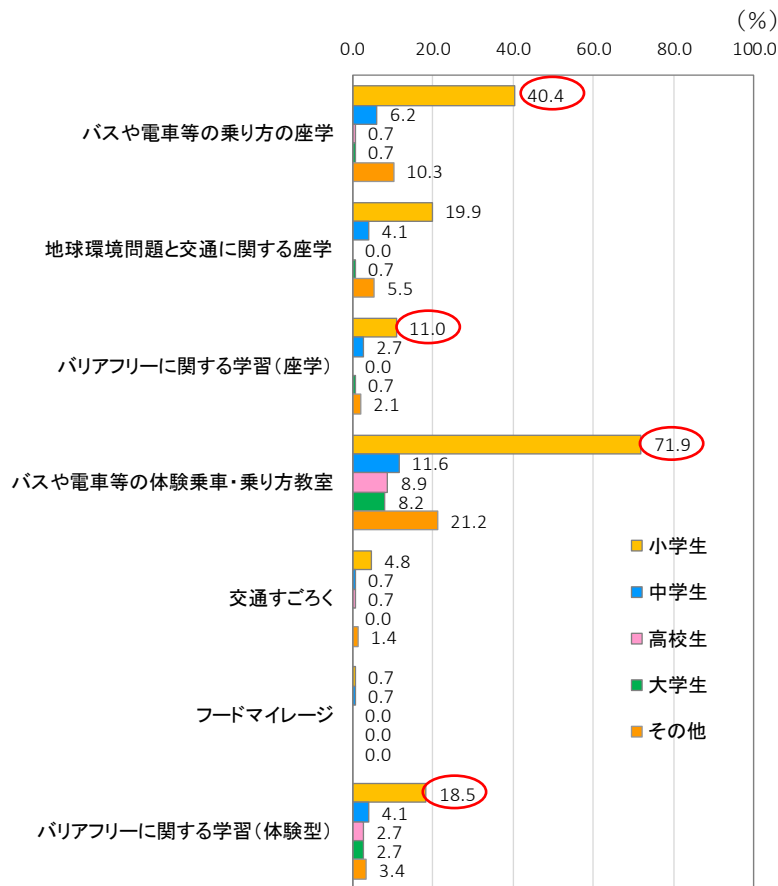
■「その他」の内容

- ・ 国、県、市、交通事業者などの共同実施（4件）
- ・ 自治体の公共交通委員会、協議会等（3件）
- ・ 鉄道の活性化協議会（2件）
- ・ 学校（2件）
- ・ 広域連合及び運行事業者
- ・ 商業施設主体イベントの1つに市として出展
- ・ 県バス協会が主体となり実施
- ・ NPOが主体となり、自治体、交通事業者が協力して実施

⑤実施した「交通環境学習」の対象者と内容

問3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？
 (枠内の該当する部分に○をご記入ください)

- 小学生を対象とした「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」が最も多く71.9%を占め、「バスや電車等の乗り方の座学」が40.4%と続く。
- 「バリアフリーに関する学習(座学)」は小学生で11.0%、「バリアフリーに対する学習(体験型)」は小学生で18.5%、その他の対象で2.7~4.1%となっている。



	回答者数(件)							構成比(%)							
	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	
座学	バスや電車等の乗り方の座学	59	9	1	1	15	79	146	40.4	6.2	0.7	0.7	10.3	54.1	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	29	6	0	1	8	114	146	19.9	4.1	0.0	0.7	5.5	78.1	100.0
	バリアフリーに関する学習(座学)	16	4	0	1	3	128	146	11.0	2.7	0.0	0.7	2.1	87.7	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	105	17	13	12	31	32	146	71.9	11.6	8.9	8.2	21.2	21.9	100.0
	交通すごろく	7	1	1	0	2	138	146	4.8	0.7	0.7	0.0	1.4	94.5	100.0
	フードマイレージ	1	1	0	0	0	145	146	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	99.3	100.0
	バリアフリーに関する学習(体験型)	27	6	4	4	5	145	146	18.5	4.1	2.7	2.7	3.4	99.3	100.0
その他	その他1	18	7	7	3	6	121	146	12.3	4.8	4.8	2.1	4.1	82.9	100.0
	その他2	4	5	2	2	3	140	146	2.7	3.4	1.4	1.4	2.1	95.9	100.0

図 「交通環境学習」の対象者と内容

■「その他」の内容

- ・地域の公共交通に関する講座（5件）
- ・無料乗車券、フリーきっぷの配布（4件）
- ・バス運転士、鉄道職員の職業体験（2件）
- ・紙芝居を活用した学習（2件）
- ・ノーマイカーウィークの呼びかけ
- ・お絵かきバス
- ・路面電車、路線バス、コミュニティサイクルを利用したスタンプラリーとワークショップ
- ・公共交通を活用した校外学習
- ・ペーパークラフトバスの作製
- ・時刻表の見方に関する説明
- ・地球環境問題と交通に関する動画教材の視聴
- ・目的地を設定し、様々な交通手段を検討の上、金額や時間、CO2排出量などを比較し、移動の在り方を考える
- ・電気自動車の見学
- ・路線バスの現状と利用促進に関する座学
- ・座学と体験型（交通すごろく、実車を見て環境への影響を学ぶ）を1つのカリキュラムとして実施
- ・JR歴史学習
- ・自転車等の交通ルール
- ・鉄道利用者へのマナーアップ呼びかけ
- ・目的地までの移動プランの作成
- ・高齢者向けのバスでお出かけ計画作成
- ・様々な交通手段の紹介
- ・バスや鉄道など公共交通機関の乗り方について

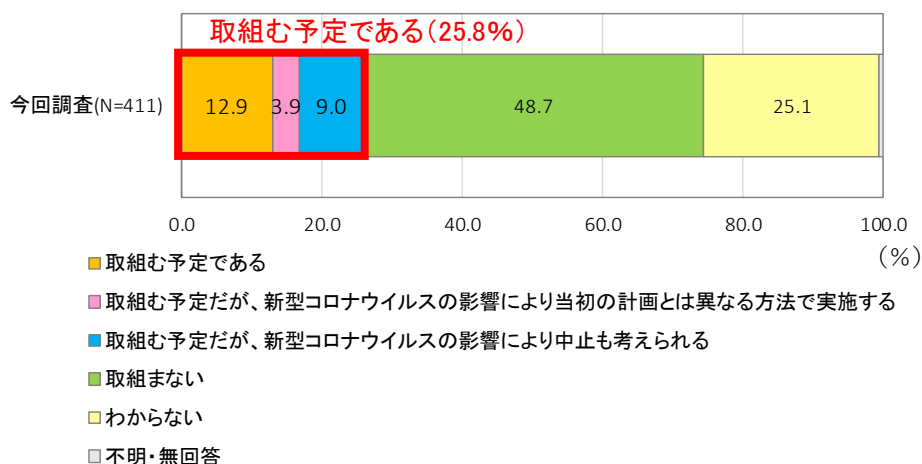
(2) 今後の「交通環境学習」について

① 今後「交通環境学習」に取り組む意向

問4 今後の「交通環境学習」の取組みについてお伺いします。

(1) 今年度（令和2年度）、「交通環境学習」に取り組む予定はありますか？（1つに○）

- 「取り組まない」が48.7%と最も高く、次いで「わからない」が25.1%となっている。
- 「取り組む予定である」は12.9%、「取り組む予定であるが、新型コロナウイルスの影響により当初の予定とは異なる方法で実施する」「取り組む予定であるが、新型コロナウイルスの影響により中止も考えられる」は合わせて12.9%であり、「取り組む予定」のうち半数は新型コロナウイルスの影響により取組内容の変更や中止を検討していることがわかった。



	回答数 (件)	構成比 (%)
取組む予定である	53	12.9
取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により当初の計画とは異なる方法で実施する	16	3.9
取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により中止も考えられる	37	9.0
取組まない	200	48.7
わからない	103	25.1
不明・無回答	2	0.5
合計	411	100.0
取組む予定あり	106	25.8

図 「交通環境学習」に取り組む予定

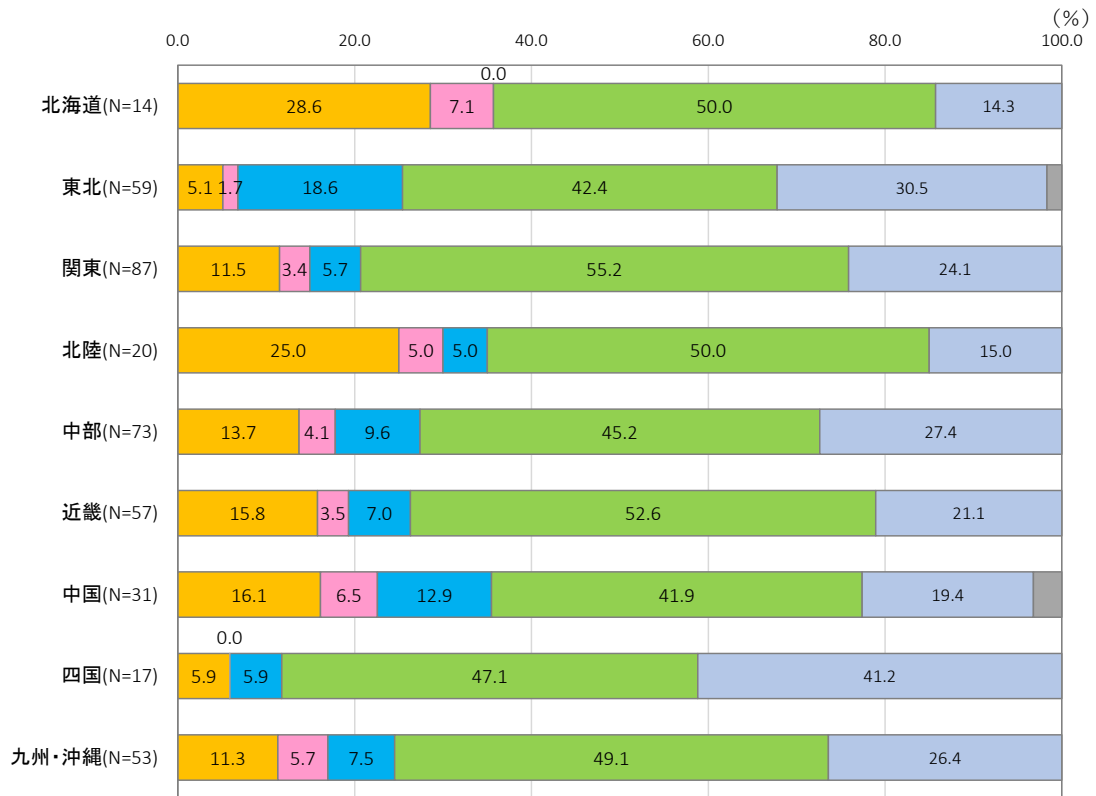


図 地方別 「交通環境学習」に取組む予定

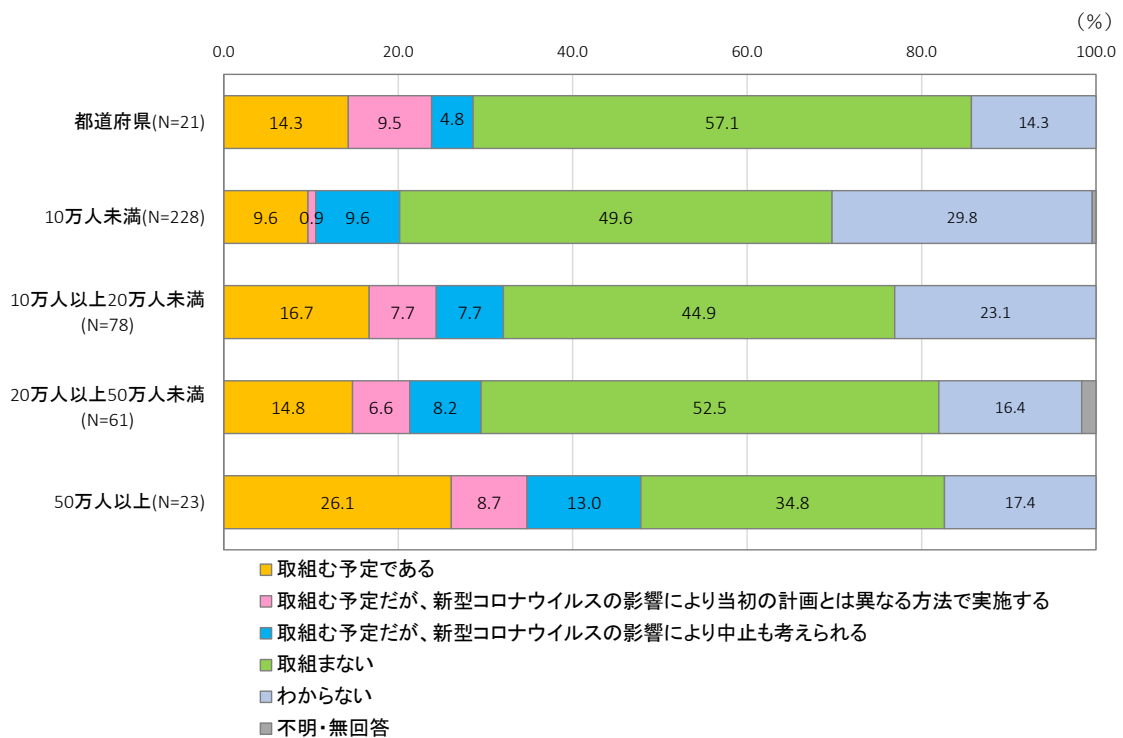


図 人口規模別 「交通環境学習」に取組む予定

②今年度の「交通環境学習」の取組み方法

副問 4.1 (1) で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

今年度の「交通環境学習」は、どのような方法で取組む予定ですか。当初の計画とは異なる方法で実施する場合、当初の計画についても教えてください。(自由記述)

※1件の回答を複数に分類しているため、件数とは一致しない。

【取り組む予定である】

○「鉄道・バスの乗り方教室、マナー講座」が最も多く、検討中という回答も見られた。

分類項目	件数(件)
鉄道・バスの乗り方教室、マナー講座	15
感染症対策に配慮して、例年とは異なるかたちで実施・検討中	11
公共交通に関する座学・体験型学習	10
学校等の要望・依頼があれば実施	6
パンフレット・リーフレット、お試し乗車券・フリーきっぷの配布	2
その他	12

【取り組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により当初の計画とは異なる方法で実施する】

○当初はイベントやグループでの学習を予定していたが、学校単位での対応とする、グループにならない個別の学習とする、などの工夫を挙げている自治体が見られた。

分類項目	件数(件)
グループにならない個別の学習	4
学校での乗り方教室	3
一部プログラムの中止・変更、検討中	3
ホームページ等での広報、パネル展示	2
冊子・動画教材を用いた学習	1
その他	3

【取り組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により中止も考えられる】

○「未定、検討中」が最も多く見られ、「既に中止が決定している」も5件あった。

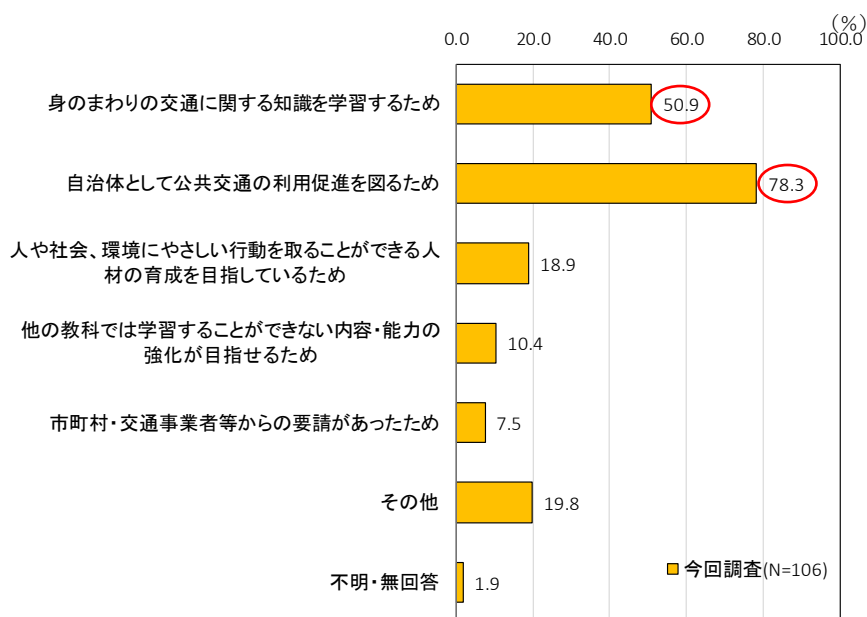
分類項目	件数(件)
未定、検討中	11
鉄道・バスの乗り方教室	7
既に中止が決定している(新型コロナウイルスの影響)	5
要望があれば実施する	4
公共交通に関する座学・体験型学習	4
その他	6

③コロナの影響がある中で「交通環境学習」を実施する理由

副問 4.2 (1) で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

新型コロナウイルスの影響で、学校の授業・イベント自体が縮小されている中において、交通環境学習を実施する理由は何ですか？（いくつでも）

○「自治体として公共交通の利用促進を図るため」が78.3%と最も多く、次いで「身のまわりの交通に関する知識を学習するため」が50.9%となった。



	回答数 (件)	構成比 (%)
身のまわりの交通に関する知識を学習するため	54	50.9
自治体として公共交通の利用促進を図るため	83	78.3
人や社会、環境にやさしい行動を取ることができる人材の育成を目指しているため	20	18.9
他の教科では学習することができない内容・能力の強化を目指すため	11	10.4
市町村・交通事業者等からの要請があったため	8	7.5
その他	21	19.8
不明・無回答	2	1.9
合計	106	100.0

図 「交通環境学習」を実施する理由

■「その他」の内容

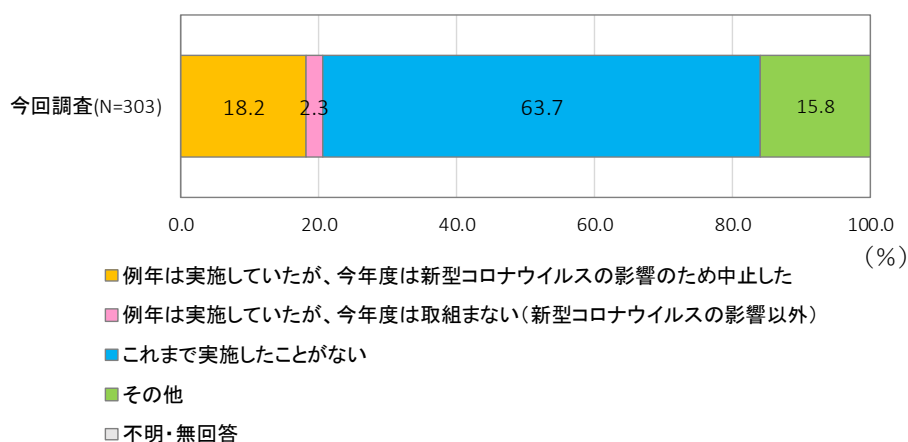
- ・学校からの要請があったため（6件）
- ・感染対策の徹底でリスクを抑えながら実施できると考えたため（4件）
- ・コロナ禍で利用が減少している公共交通の利用促進を図るため（3件）
- ・通学での安全なバス利用のため
- ・学校から乗り方教室実施について理解を得られたため
- ・首長の要請による

④これまでの「交通環境学習」への取組み

副問 4.3 (1) で「4」「5」とお答えの方にお伺いします。

これまでの「交通環境学習」への取組について教えてください。(1つに〇)

- 今年度の交通環境学習への取組みについて、「取組まない」「わからない」の回答者にこれまでの取組みについて聞いたところ、「これまで実施したことがない」が63.7%と最も高く、次いで「例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した」が18.2%であり、新型コロナウイルスが交通環境学習の実施へ影響を与えていることがうかがえる。
- 地方別に見ると、関東及び中部では、「例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した」と回答した自治体が10件以上あった。

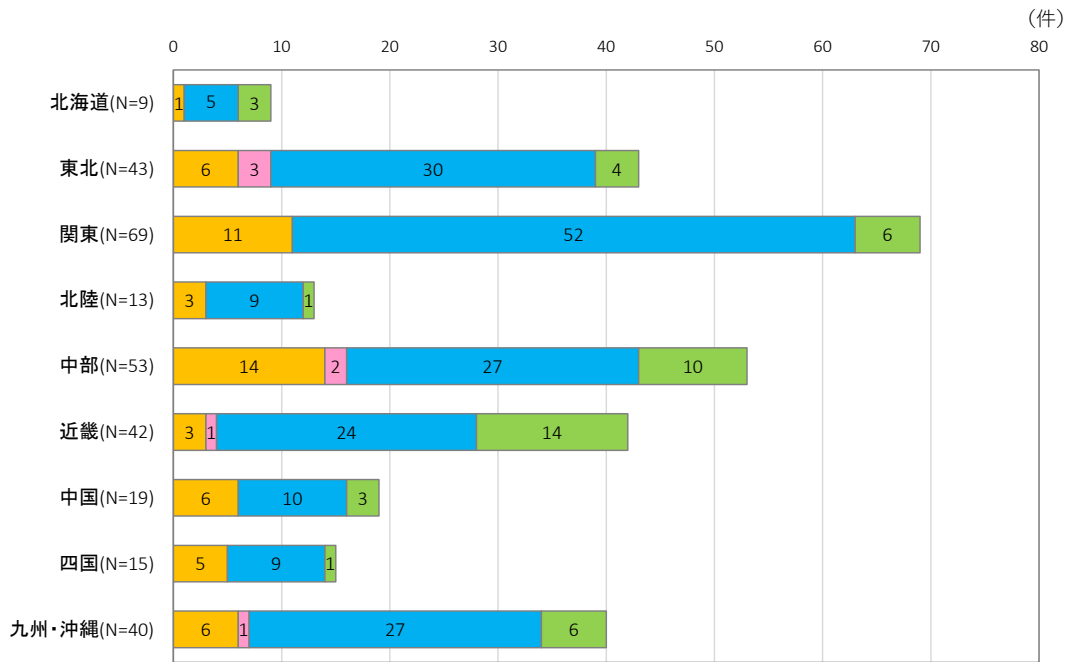


	回答数 (件)	構成比 (%)
例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した	55	18.2
例年は実施していたが、今年度は取組まない(新型コロナウイルスの影響以外)	7	2.3
これまで実施したことがない	193	63.7
その他	48	15.8
不明・無回答	0	0.0
合計	303	100.0

図 これまでの交通環境学習の取組み

■「その他」の主な内容

- ・例年ではないが、過去に実施したことはある(今年度は取組まない)(20件)
- ・学校、自治体、教育委員会等からの要請があれば実施している(15件)
- ・各学校の授業や、他の事業の中で独自に実施している(4件)
- ・未定・検討中(3件)
- ・今年度の取組みは終了(見込)



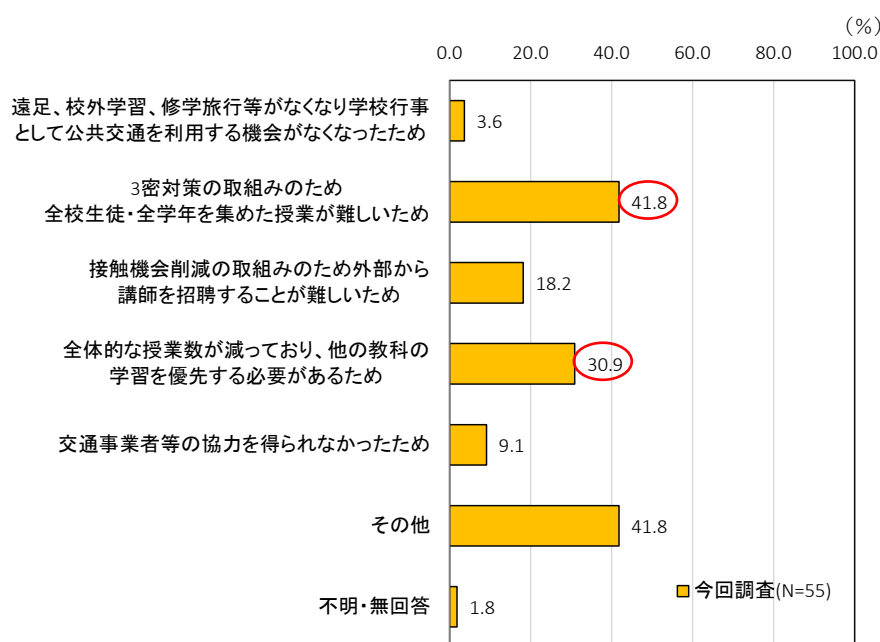
- 例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した
- 例年は実施していたが、今年度は取組まない(新型コロナウイルス以外の影響)
- これまで実施したことがない
- その他
- 不明・無回答

図 地方別 これまでの交通環境学習の取組

⑤ 「交通環境学習」への新型コロナウイルスの影響

副問 4.4 副問で 4.3 「1」とお答えの方にお伺いします。
 新型コロナウイルスの影響により交通環境学習が実施できなくなった理由としては、どのようなものがありますか？（いくつでも）

- 前問で「例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した」の回答者にその理由を聞いたところ、「3密対策の取組みのため全校生徒・全学年を集めた授業が難しいため」が41.8%と最も多く、次いで「全体的な授業数が減っており、他の教科の学習を優先する必要があるため」が30.9%となった。
- 「その他」の内容として、「バスまつりなど、イベント自体が中止になったため」の回答が9件挙げられた。



	回答数 (件)	構成比 (%)
遠足、校外学習、修学旅行等がなくなり学校行事として公共交通を利用する機会がなくなったため	2	3.6
3密対策の取組みのため全校生徒・全学年を集めた授業が難しいため	23	41.8
接触機会削減の取組みのため外部から講師を招聘することが難しいため	10	18.2
全体的な授業数が減っており、他の教科の学習を優先する必要があるため	17	30.9
交通事業者等の協力を得られなかったため	5	9.1
その他	23	41.8
不明・無回答	1	1.8
合計	55	100.0

図 「交通環境学習」への新型コロナウイルスの影響

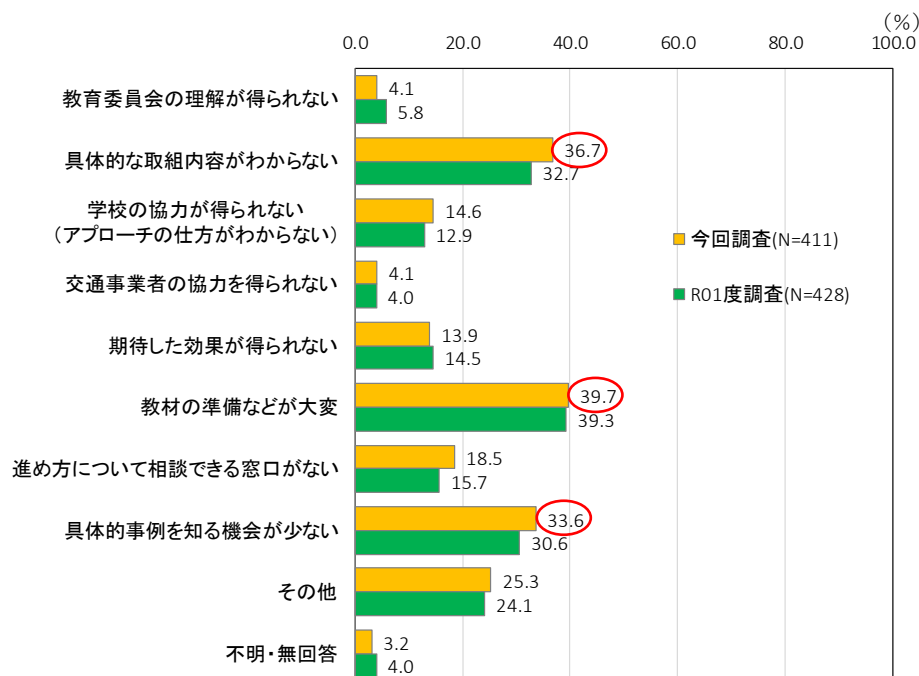
■「その他」の主な内容

- ・バスまつりなど、イベント自体が中止になったため（9件）
- ・全般的な感染拡大防止のため（6件）
- ・3密を避けるため（バスの試乗など）（3件）
- ・接触機会削減のため（3件）
- ・主催者が密を避けられないと判断したため
- ・出前講座の要望がないため

⑥ 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

○「教材の準備などが大変」が39.7%と最も高く、次いで「具体的な取組内容がわからない」が36.7%、「具体的事例を知る機会が少ない」が33.6%となっている。



	今回調査		R01度調査		H30度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)
教育委員会の理解が得られない	17	4.1	25	5.8	27	6.3
具体的な取組内容がわからない	151	36.7	140	32.7	145	33.6
学校の協力が得られない (アプローチの仕方がわからない)	60	14.6	55	12.9	57	13.2
交通事業者の協力を得られない	17	4.1	17	4.0	10	2.3
期待した効果が得られない	57	13.9	62	14.5	63	14.6
教材の準備などが大変	163	39.7	168	39.3	170	39.4
進め方について相談できる窓口がない	76	18.5	67	15.7	75	17.4
具体的事例を知る機会が少ない	138	33.6	131	30.6	161	37.3
その他	104	25.3	103	24.1	92	21.3
不明・無回答	13	3.2	17	4.0	22	5.1
合計 (回答対象件数)	411	100.0	428	100.0	432	100.0

図 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁

■「その他」の主な項目

分類項目	件数 (件)
担当課の人手不足	20
関係機関との調整・学校の理解	14
効果の把握方法	11
予算の確保	12
新型コロナウイルスへの対応方法	5
授業時間が確保できない	4
「交通環境学習」の認知度の・優先度の低さ	4
イベント等の地域住民に対する効果的な集客・周知方法	3
教材開発・学習内容	2
課題や障壁はない・認識していない	25
その他	12

○人口規模別にみると、いずれの人口規模においても「教材の準備が大変」の割合が高くなっている。10万人未満では、「具体的な取組み方法がわからない」、20万人以上では「その他」も多く挙げられている。

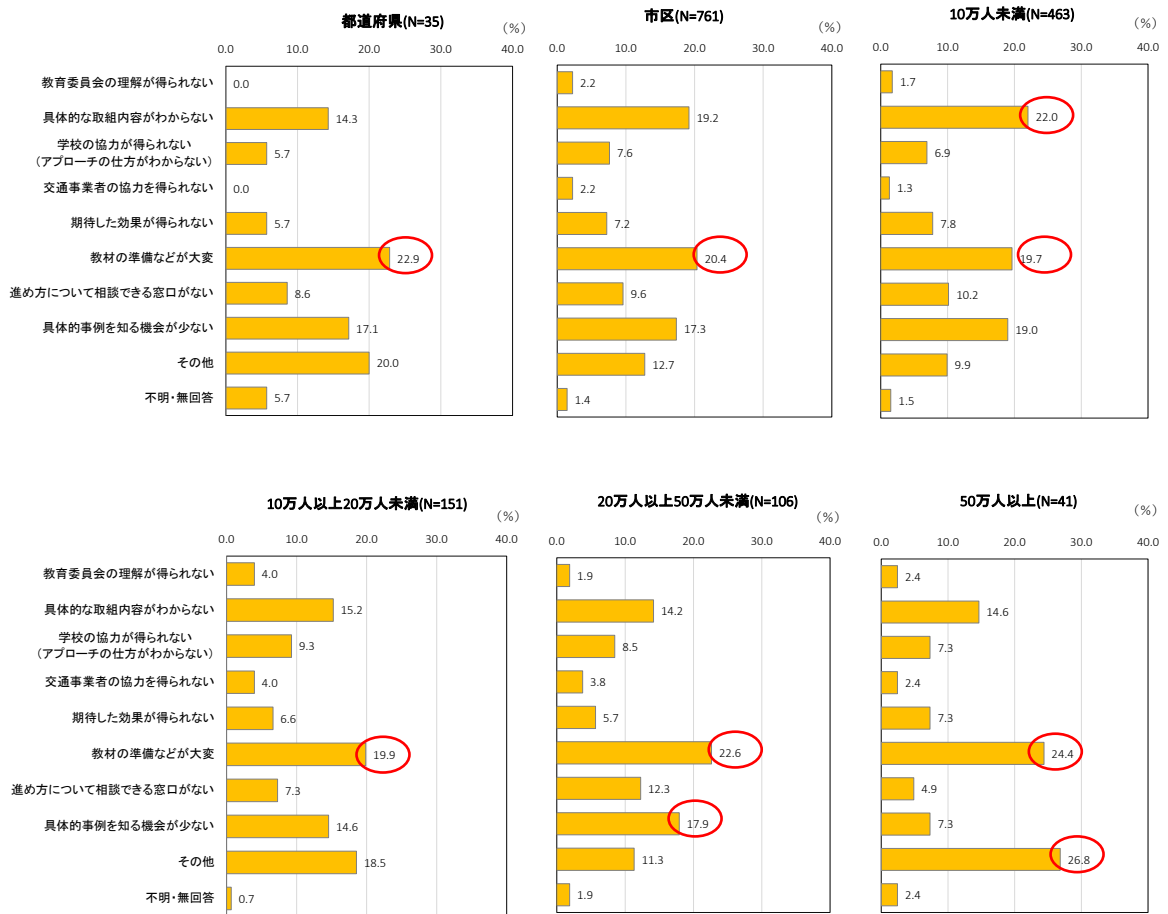


図 人口規模別「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

⑦「交通環境学習」に取り組む場合に予想される問題点や支援してほしい事柄（自由記述）

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援してほしい事柄などについて、具体的に教えてください。

○取組に向けて予想される問題点や支援してほしい内容について下記の分類で自由意見を整理した。問題や課題に関する意見が155件あり、うち「学校や教育委員会の理解・協力・調整」に関するものが最も多く27件の意見があった。また、新型コロナウイルス感染症対策との両立に関連した意見も17件あった。

○支援してほしい事柄に関する意見は61件で、「事例紹介」「学習プログラム・教材・ノベルティの提供」「講師等の派遣」に関する意見が多く挙げられた。

※なお、ひとつの意見に複数の分類が重なっているため、回答自治体数の合計と一致しない。

表 取組に向けて予想される問題点や支援要望内容（自由記述内容）

分類項目	件数(件)
予想される問題や課題	155
学校や教育委員会の理解・協力・調整	27
学習内容・教材の検討	22
コロナ関連（感染防止対策をしながら実施した事例、通常授業との両立）	17
担当課の人手不足	16
効果への疑問・効果のわかりにくさ	13
公共交通が身近でない・利便性が低い	12
予算の確保	11
交通事業者との調整	9
実施校・参加者の確保	6
ノウハウ不足	3
庁内の理解、調整	2
その他	17
支援してほしい事柄	61
事例紹介	14
学習プログラム・教材・ノベルティの提供	14
講師等人員の派遣	14
費用負担・補助	8
ノウハウ提供、相談体制、研修会	4
学校による主体的取組の促進	3
国への働きかけ	1
その他	3

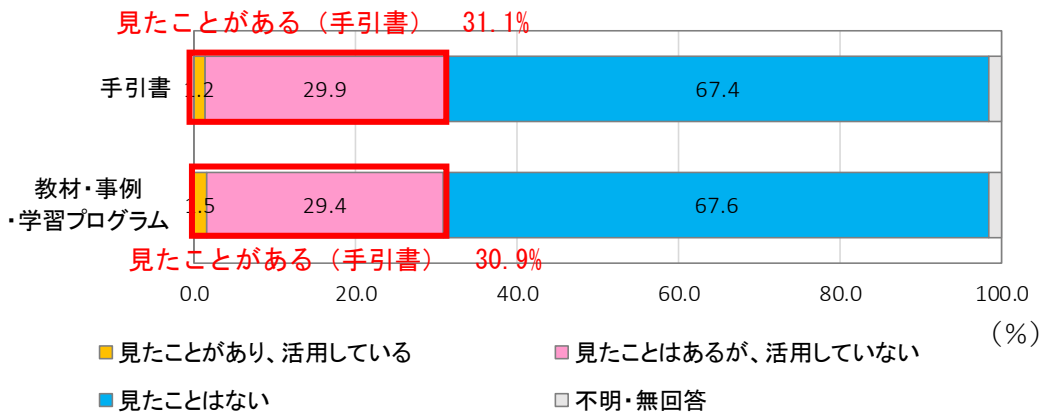
(3) 「交通環境学習」の教材の活用状況について

1) 交通エコモ財団が提供する教材

① 交通エコモ財団が提供する教材（手引書）の認知度

問7 エコモ財団 HP から入手できる資料についてお伺いします。
 (1) エコモ財団 HP で入手できる、「交通環境学習手引書」（本編または概要版）を見たことがありますか？（1つに○）
 (2) エコモ財団 HP で入手できる、教材・事例・学習プログラムを見たことがありますか？（1つに○）

- 手引書では、「見たことはない」が67.4%と最も高く、次いで「見たことはあるが、活用していない」が29.9%、「見たことがあり、活用している」が1.2%となっている。「見たことがある」を合わせると約30%となっている。
- 教材・事例・学習プログラムにおいても、手引書とほぼ同様の結果となっている。
- 交通環境学習の実施状況別に教材の認知度を見ると、「これまで実施したことがない」自治体と比較して、「実施した」「過去に実施したことがある」自治体では、教材を「見たことがある」回答が多くなっている。



	手引書		教材・事例・学習プログラム	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
見たことがあり、活用している	5	1.2	6	1.5
見たことはあるが、活用していない	123	29.9	121	29.4
見たことはない	277	67.4	278	67.6
不明・無回答	6	1.5	6	1.5
合計	411	100.0	411	100.0

図 交通エコモ財団が提供する教材の認知度

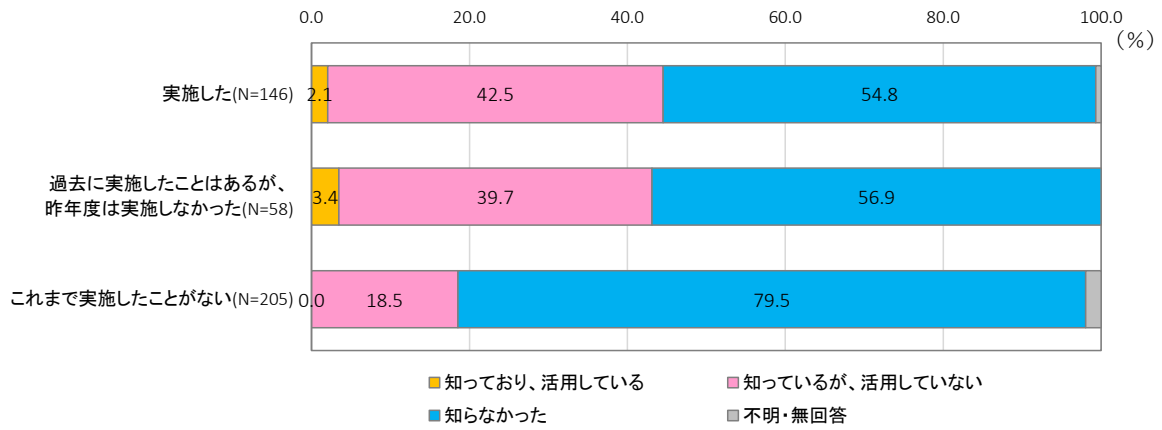


図 「交通環境学習」の実施状況別 手引書の認知度

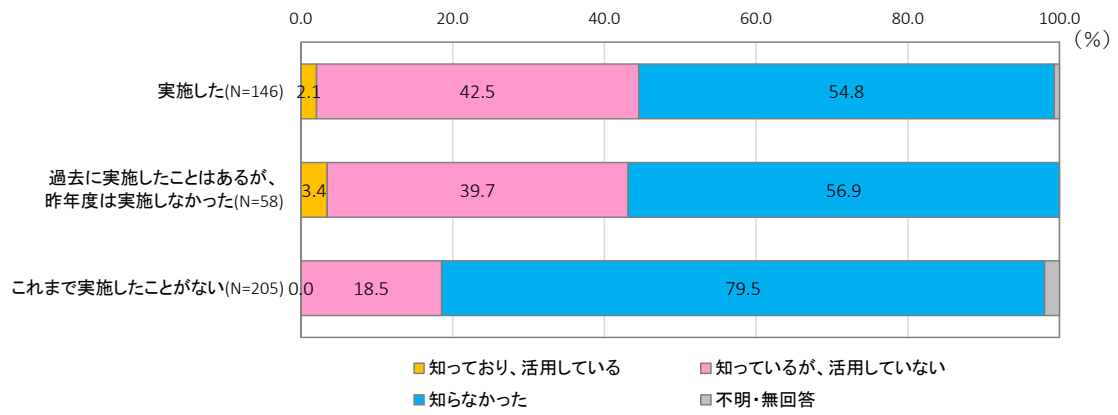
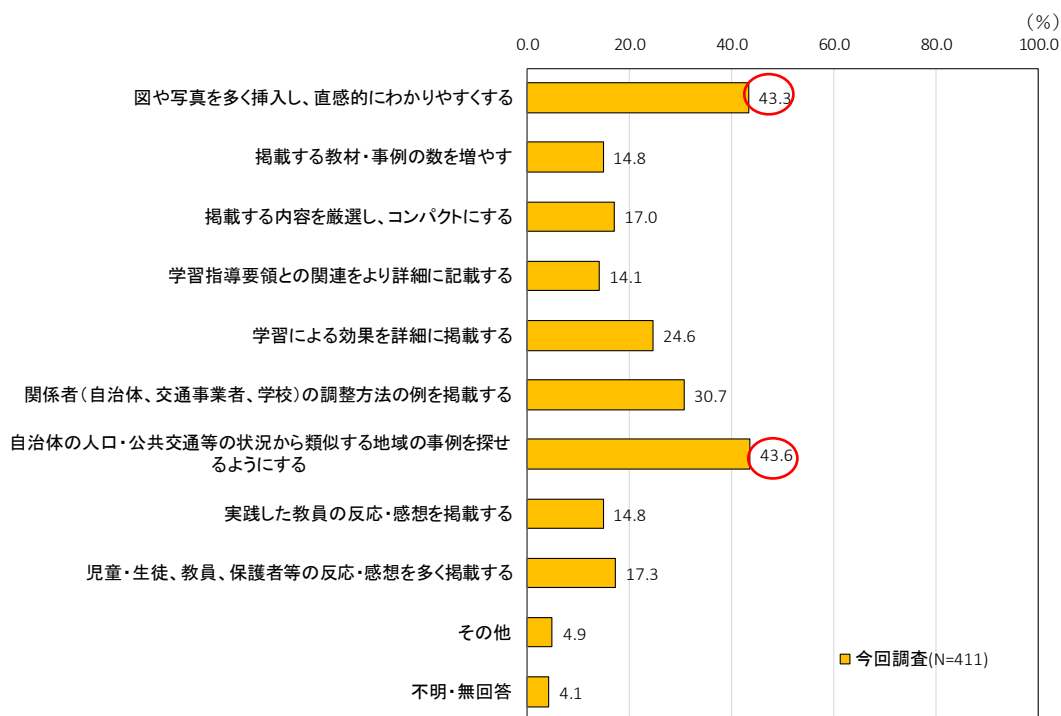


図 「交通環境学習」の実施状況別 教材・事例・学習プログラムの認知度

(3)手引書、事例・教材、学習プログラムを使いやすく、より役立つものにするには、どのようにしたらよいと思いますか？エコモ財団 HP にてダウンロードできる PDF ファイル、本調査票に同封の資料 1、資料 2 を参考に回答ください。(いくつでも)

○「自治体の人口・公共交通の状況から類似する地域の事例を探せるようにする」が 43.6%と最も多く、次いで「図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする」が 43.3%となっている。



	回答数 (件)	構成比 (%)
図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする	178	43.3
掲載する教材・事例の数を増やす	61	14.8
掲載する内容を厳選し、コンパクトにする	70	17.0
学習指導要領との関連をより詳細に記載する	58	14.1
学習による効果を詳細に掲載する	101	24.6
関係者(自治体、交通事業者、学校)の調整方法の例を掲載する	126	30.7
自治体の人口・公共交通等の状況から類似する地域の事例を探せるようにする	179	43.6
実践した教員の反応・感想を掲載する	61	14.8
児童・生徒、教員、保護者等の反応・感想を多く掲載する	71	17.3
その他	20	4.9
不明・無回答	17	4.1
合計	411	100.0

図 教材を使いやすくするための工夫

■「その他」の主な意見

- ・動画教材を作成する（2件）
- ・ゲーム性を高める
- ・学習による効果を数量化指標により明示する
- ・公共交通の重要性を教育委員会と共有する
- ・使用する資料・準備物を明記した学習指導案を実践事例として挙げる
- ・手引き等は簡素化し、事例集をHPに掲載することで検索可能にする

2)教材に対する意見・要望（自由記述）

問8 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

- 教材の内容に望むこととしては、「実際に運行している交通に関する資料、事例集など」が多く挙げられた。
- 教材の形式としては、「動画教材、クイズ」のほか、「プロジェクターで使用できるパワーポイント教材」を望む意見も挙げられた。

表 教材に対する意見・要望

分類項目		件数(件)
内容	実際に運行している交通に関する資料、事例集など	5
	親子、幼稚園児、高齢者等、幅広い年代に対応した教材	4
	学校関係者向けの教材、協働事例	2
	その他	7
形式	動画教材、クイズ	6
	バスの料金箱やボタンなどの体験型教材	2
	プロジェクターで使用できるパワーポイント教材	2
	その他	4
回答件数		32

1.2 教育委員会向けアンケート

1.2.1 調査の目的

全国の教育委員会を主体としたにおける交通環境学習の継続的な実施状況及び交通環境学習を普及していく上での課題把握を目的とする。

1.2.2 調査の設計

- 調査対象 都道府県及び市（東京 23 区含む）
- 調査票本数 862 件（47 都道府県、792 市、東京 23 区）
- 調査方法 配布：郵送配布
回収：選択方式（インターネット、FAX、メール）

※メール回答の場合は、MM 学習ポータルサイトからダウンロードできる電子データの調査票を用いる。より回答が簡易にできるよう、配布する電子データの調査票はエクセル形式とした。

- 調査時期 令和 2 年 10 月 12 日（月）～令和 2 年 10 月 30 日（金）

1.2.3 調査票の配布・回収の状況

- 配布件数 862 件
- 有効回収件数（率） 95 件（11.0%）

表 配布件数・有効回収件数

	配布件数 (件)	有効回答	
		回収数 (件)	構成比 (%)
インターネット	862	70	73.7
FAX		20	21.1
メール		5	5.3
総計	862	95	100.0

<参考> 過年度調査の回収方法と回収率 ※調査方法、配布方法は今年度調査を同様

	令和元年度調査		平成 30 年度調査	
	回収数 (件)	構成比 (%)	回収数 (件)	構成比 (%)
インターネット	60	60.0	41	57.7
FAX	33	33.0	27	36.0
メール	7	7.0	7	9.3
有効回収件数	100	100.0	75	100.0
	回収率 11.6%		回収率 8.7%	

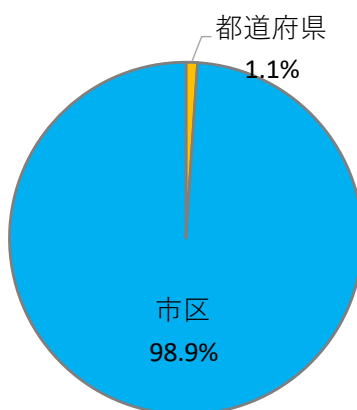
1.2.4 調査項目及び調査票の設計

調査項目は、前年度調査の設問を基本とし、自治体向けと同様エコモ財団 HP からダウンロードできる資料に関する設問のほか、デジタル機器の活用状況の設問を追加した。

1.2.5 調査結果

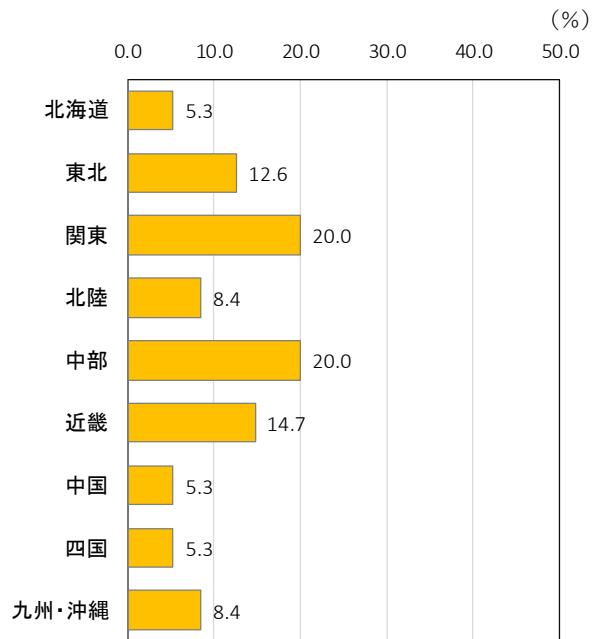
■回答者について

- 「都道府県」から1件、「市区」から94件の回答を得た。
- 構成比を地域別に見ると、「関東」と「中部」が20.0%となっている。
- 人口規模別に見ると、「10万人未満」が70.5%と最も多く、次いで「20万人以上50万人未満」が15.8%、「10万人以上20万人未満」が10.5%となっている。



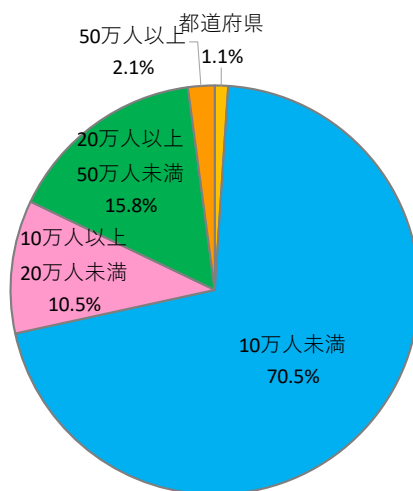
	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	1	1.1	1	1.0
市区	94	98.9	99	99.0
合計	95	100.0	100	100.0

図 回答自治体



	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
北海道	5	5.3	10	10.0
東北	12	12.6	14	14.0
関東	19	20.0	12	12.0
北陸	8	8.4	8	8.0
中部	19	20.0	15	15.0
近畿	14	14.7	14	14.0
中国	5	5.3	9	9.0
四国	5	5.3	5	5.0
九州・沖縄	8	8.4	13	13.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	95	100.0	100	100.0

図 地方種別



	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
都道府県	1	1.1	1	1.0
10 万人未満	67	70.5	67	67.0
10 万人以上 20 万人未満	10	10.5	16	16.0
20 万人以上 50 万人未満	15	15.8	11	11.0
50 万人以上	2	2.1	5	5.0
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	95	100.0	100	100.0

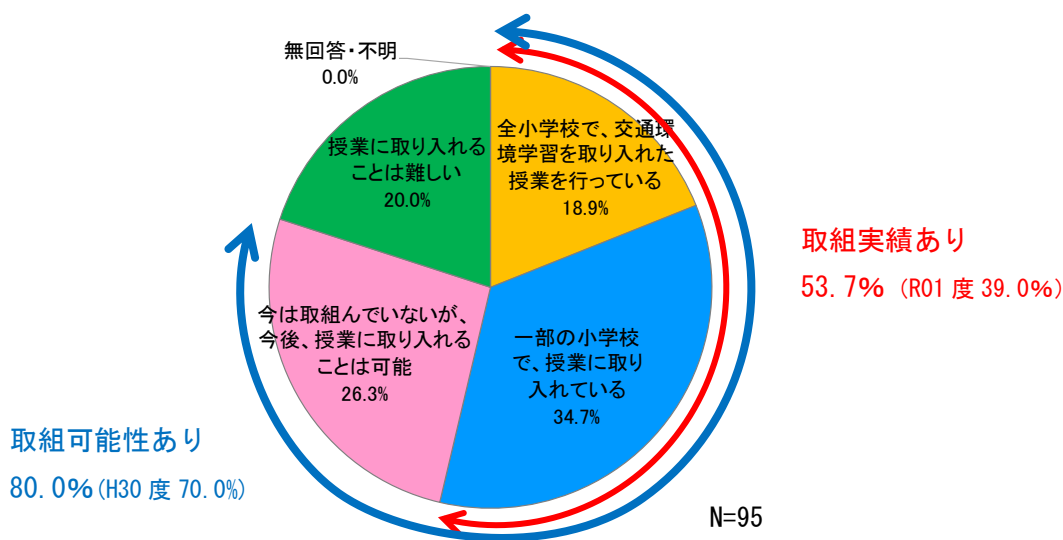
図 人口規模別

(1) 「交通環境学習」の取組状況

1) 「交通環境学習」の取組状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「交通環境学習」に取り組んでいますか？（1つに○）

- 交通環境学習の取組状況は、「一部の小学校で、授業に取り入れている」が34.7%と最も多く、次いで、「今は取組んでいないが、今後授業に取り入れることは可能」が26.3%、「授業に取り入れることは難しい」が20.0%、「全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている」が18.9%となっている。
- 全小学校または一部で授業を行っている取組実績のある教育委員会は53.7%と、前年度調査の39.0%と比較して14.7ポイント増加している。
- 取組実績のある教育委員会及び、今後授業に取り入れることは可能な取組可能性のある教育委員会は80.0%と、昨年度の72.0%から増加している。



	今回調査		R01 度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている	18	18.9	14	14.0
一部の小学校で、授業に取り入れている	33	34.7	25	25.0
今は取組んでいないが、今後、授業に取り入れることは可能	25	26.3	31	31.0
授業に取り入れることは難しい	19	20.0	28	28.0
不明・無回答	0	0.0	2	2.0
合計	95	100.0	100	100.0

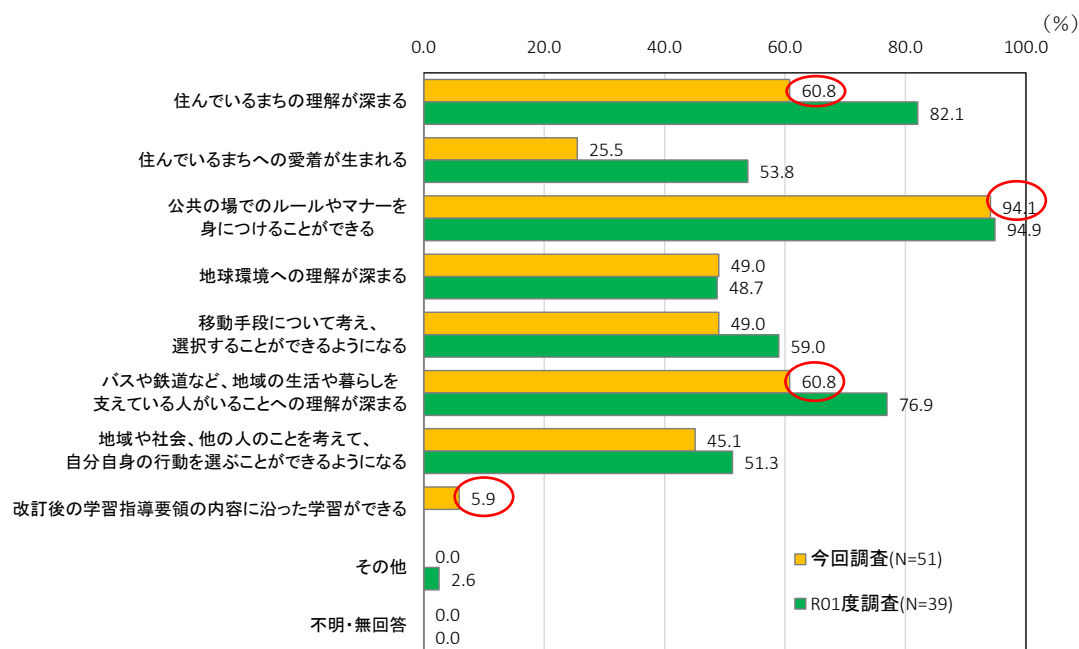
図 「交通環境学習」の取組状況

2) 交通環境学習の効果

(問1で「全小学校で交通環境学習を取り入れた授業を行っている」「一部の小学校で、授業に取り入れている」と回答した教育委員会のみ)

問2 「交通環境学習」には、どのような効果があるとお考えですか。

- 「公共の場でのルールやマナーを身に着けることができる」が94.1%と最も多く、次いで「住んでいるまちの理解が深まる」「バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる」が60.8%となった。
- 今年度調査にて追加した選択肢「改定後の学習指導要領の内容に沿った学習ができる」は5.9%であった。



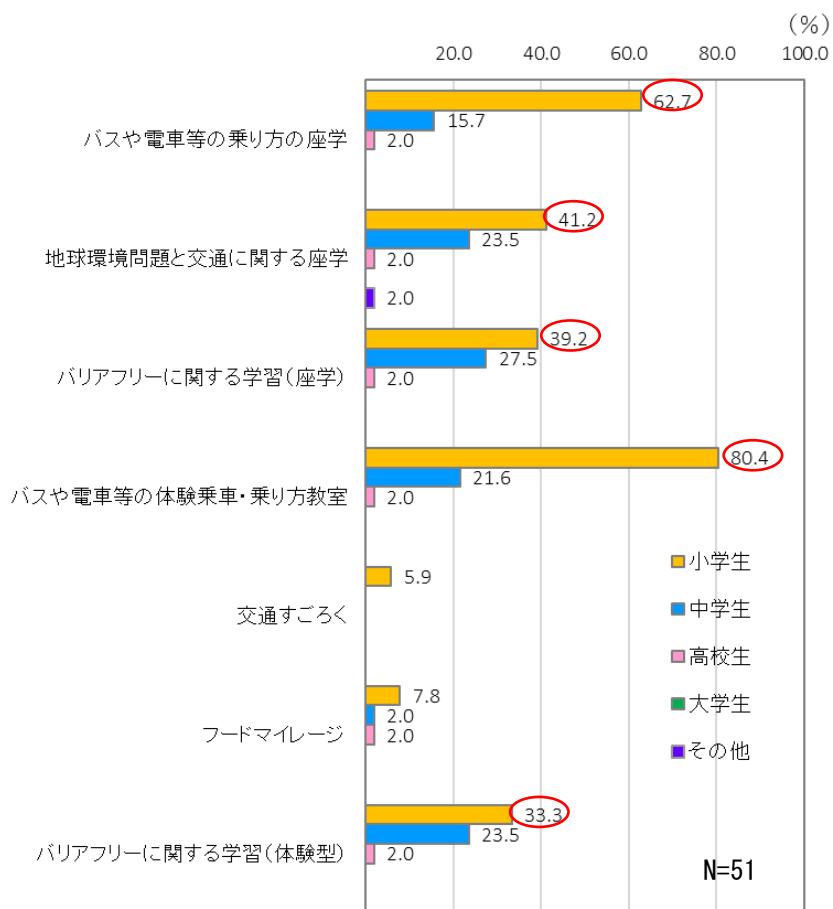
	今回調査		R01度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
住んでいるまちの理解が深まる	31	60.8	32	82.1
住んでいるまちへの愛着が生まれる	13	25.5	21	53.8
公共の場でのルールやマナーを身に付けることができる	48	94.1	37	94.9
地球環境への理解が深まる	25	49.0	19	48.7
移動手段について考え、選択することができるようになる	25	49.0	23	59.0
バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる	31	60.8	30	76.9
地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる	23	45.1	20	51.3
改訂後の学習指導要領の内容に沿った学習ができる	3	5.9	-	-
その他	0	0.0	1	2.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計(回答対象者数)	51	100.0	39	100.0

図 「交通環境学習」に期待する効果（複数回答）

3) 実施した「交通環境学習」の対象者と内容

問3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？
 (枠内の該当する部分に○をご記入ください)

- 小学生を対象とした「バスや電車等の体験乗車・乗り方教室」が最も多く 80.4%を占め、「バスや電車等の乗り方の座学」が 62.7%と続く。
- 「地球環境問題と交通に関する座学」は小学生で 41.2%、「バリアフリーに関する学習（座学）」は小学生で 39.2%、「バリアフリーに関する学習（体験型）」は小学生で 33.3%となっている。
- 中学生でみると、「バリアフリーに関する学習（座学）」が最も多く 27.5%を占め、「地球環境問題と交通に関する座学」、「バリアフリーに関する学習（体験型）」が共に 23.5%と続く。



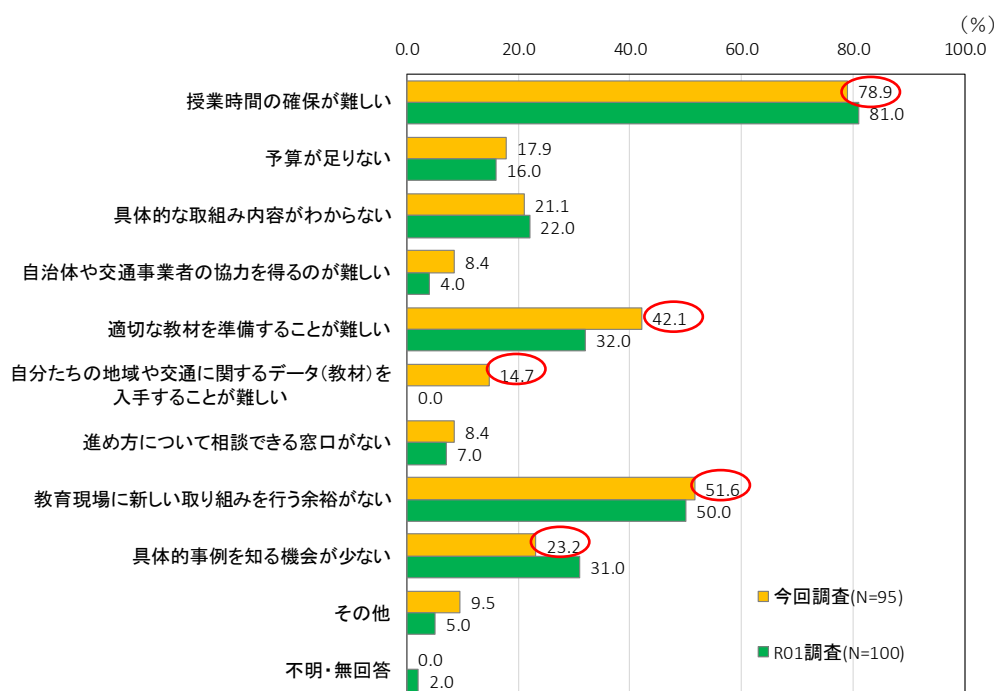
	回答者数（件）							構成比（％）							
	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	小学生	中学生	高校生	大学生	その他	不明・無回答	実施団体数	
座学	バスや電車等の乗り方の座学	32	8	1	0	0	20	51	62.7	15.7	2.0	0.0	0.0	39.2	100.0
	地球環境問題と交通に関する座学	21	12	1	0	1	28	51	41.2	23.5	2.0	0.0	2.0	54.9	100.0
	バリアフリーに関する学習（座学）	20	14	1	0	0	31	51	39.2	27.5	2.0	0.0	0.0	60.8	100.0
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室	41	11	1	0	0	12	51	80.4	21.6	2.0	0.0	0.0	23.5	100.0
	交通すごろく	3	0	0	0	0	49	51	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	96.1	100.0
	フードマイレージ	4	1	1	0	0	48	51	7.8	2.0	2.0	0.0	0.0	94.1	100.0
	バリアフリーに関する学習（体験型）	17	12	1	0	0	34	51	33.3	23.5	2.0	0.0	0.0	66.7	100.0
その他	その他 1	4	0	0	0	0	47	51	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	92.2	100.0
	その他 2	1	0	0	0	0	50	51	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	100.0

図 「交通環境学習」の対象者と内容

4) 「交通環境学習」の課題や障壁

問4 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

- 「授業時間の確保が難しい」が78.9%と多数をしめた。次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」が51.6%、「適切な教材を準備することが難しい」が42.1%、「具体的な事例を知る機会が少ない」が23.2%となっている。
- 今年度調査にて追加した選択肢「自分たちの地域や交通に関するデータ（教材）を入手することが難しい」は14.7%であった。



	今回調査		R01度調査	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
授業時間の確保が難しい	75	78.9	81	81.0
予算が足りない	17	17.9	16	16.0
具体的な取り組み内容がわからない	20	21.1	22	22.0
自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい	8	8.4	4	4.0
適切な教材を準備することが難しい	40	42.1	32	32.0
自分たちの地域の交通やデータ（教材）を入手することが難しい	14	14.7	—	—
進め方について相談できる窓口がない	8	8.4	7	7.0
教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない	49	51.6	50	50.0
具体的な事例を知る機会が少ない	22	23.2	31	31.0
その他	9	9.5	5	5.0
不明・無回答	0	0.0	2	2.0
合計（回答対象者数）	95	100.0	100	100.0

図 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁（複数回答）

■「その他」の内容

- ・公共交通機関を利用する機会がほとんどない、必要性を感じない（5件）
- ・〇〇学習が増えていく多忙感
- ・「～教育」というのが各方面から提唱され、実践を促されるが、各教科等で行っており、取り立てて全てを行うことには限界がある
- ・将来的な利用につながっているのか把握できない。
- ・バスや電車を使った校外学習では、電車を使った場合職員の目が行き届かず安全確保が課題となる。
（災害時や混雑時の車内トラブル等）

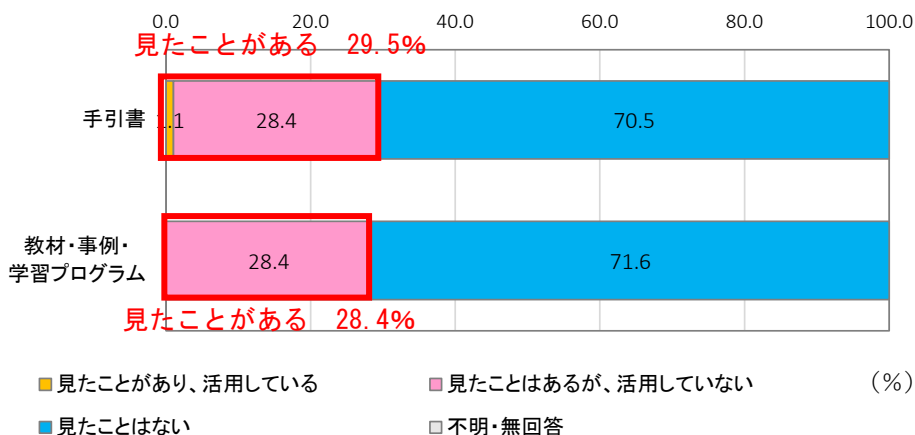
(2) 「交通環境学習」の教材の活用状況について

1) 交通エコモ財団が提供する教材

①交通エコモ財団が提供する教材（手引書）の認知度

問5 エコモ財団 HP から入手できる資料についてお伺いします。
 (1) エコモ財団 HP で入手できる、「交通環境学習手引書」（本編または概要版）を見たことがありますか？（1つに○）
 (2) エコモ財団 HP で入手できる、教材・事例・学習プログラムを見たことがありますか？（1つに○）

- 手引書では、「見たことはない」が71.6%と最も高く、次いで「見たことはあるが、活用していない」が28.4%、「知っており、活用している」が1.1%となっている。「見たことがある」を合わせると、約30%となっている。
- 教材・事例・学習プログラムにおいても、手引書とほぼ同様の結果となっており、教材認知度は低い。

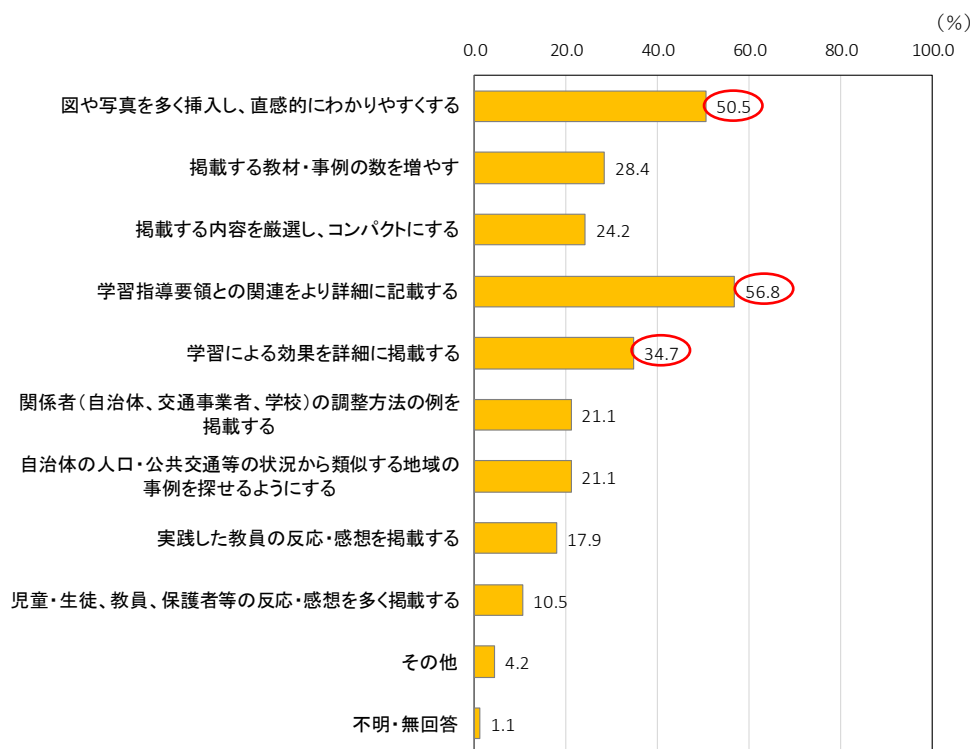


	手引書		教材・事例・学習プログラム	
	回答数 (件)	構成比 (%)	回答数 (件)	構成比 (%)
見たことあり、活用している	1	1.1	0	0.0
見たことはあるが、活用していない	27	28.4	27	28.4
見たことはない	67	70.5	68	71.6
不明・無回答	0	0.0	0	0.0
合計	95	100.0	95	100.0

図 交通エコモ財団が提供する教材の認知度

(3) 手引書、事例・教材、学習プログラムを使いやすく、より役立つものにするには、どのようにしたらよいと思いますか？エコモ財団 HP にてダウンロードできる PDF ファイル、本調査票に同封の資料 1、資料 2 を参考に回答ください。(いくつでも)

○「学習指導要領との関連をより詳細に記載する」が 56.8%と最も多く、次いで「図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする」が 50.5%、「学習による効果を詳細に掲載する」が 34.7%であった。



	回答数 (件)	構成比 (%)
図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする	48	50.5
掲載する教材・事例の数を増やす	27	28.4
掲載する内容を厳選し、コンパクトにする	23	24.2
学習指導要領との関連をより詳細に記載する	54	56.8
学習による効果を詳細に掲載する	33	34.7
関係者(自治体、交通事業者、学校)の調整方法の例を掲載する	20	21.1
自治体の人口・公共交通等の状況から類似する地域の事例を探せるようにする	20	21.1
実践した教員の反応・感想を掲載する	17	17.9
児童・生徒、教員、保護者等の反応・感想を多く掲載する	10	10.5
その他	4	4.2
不明・無回答	1	1.1
合計	95	100.0

図 教材を使いやすくするための工夫

■「その他」の内容

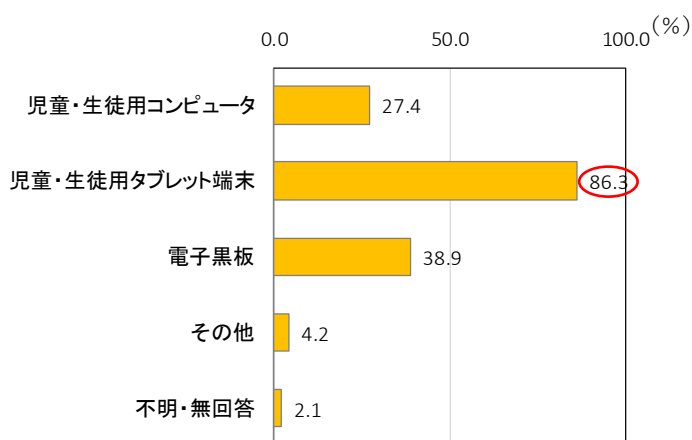
- ・公共交通機関が乏しい自治体における事例
- ・GIGAスクールにむけて子どもがゲーム感覚で主体的に学習を進められるHPやアプリの提供を
- ・多くの学校で活用していけるよう、広報にも力を入れるべき

(3) 教育機器の活用状況について

1) デジタル機器の活用状況について

問6 学習のデジタル化として貴教育委員会で導入（もしくは導入を検討）されており、交通環境学習への活用が期待される機器はありますか？（いくつでも）

○「児童・生徒用タブレット端末」が86.3%と最も高い回答を得た。



	回答数 (件)	構成比 (%)
児童・生徒用コンピュータ	26	27.4
児童・生徒用タブレット端末	82	86.3
電子黒板	37	38.9
その他	4	4.2
不明・無回答	2	2.1
合計	95	100.0

図 デジタル教材の活用が期待される機器

■その他

- ・実物投影機
- ・児童はタブレット端末・中学校は生徒用コンピューター

2) 「交通環境学習」の普及・推進について

問7 交通エコロジー・モビリティ財団が調査した結果、公共交通を教材に用いた「交通環境学習」に取り組む小学校は、全国で少しずつ増えています。

また、教育委員会と自治体が連携して「交通環境学習」の教育的効果を考え、授業に活かしている地域もあります。

貴教育委員会としては、「交通環境学習」を普及・推進することに対して、どのように思われますか。

- 「普及・推進していく上での課題」に関する意見が36件と多く、その中でも「カリキュラム、時間的余裕がない」といった内容が最も多かった。また、自治体の特性として「公共交通が身近にない、利便性が低い」ことに課題を感じている教育委員会も複数挙げられた。
- 「交通環境学習の効果、重要性」「取り組みに関する工夫」等の意欲的な意見もそれぞれ11件挙げられた。
- また、「交通環境学習に期待すること」として、地球環境やSDGsの観点から社会問題に関心を持てるようになる、といった教育的効果を期待する意見が複数挙げられた。

※なお、ひとつの意見に複数の分類が重なっているため、回答自治体数の合計と一致しない。

表 交通環境学習の普及・推進に関する意見

分類項目	件数（件）
普及・推進していく上での課題	36
カリキュラム、時間的余裕がない	18
公共交通が身近にない、利便性が低い	11
その他	7
交通環境学習の効果、重要性	14
取組に関する工夫	14
交通環境学習に期待すること	13
その他	7
回答件数	84

1.3 アンケート調査結果のまとめと今後の課題

(1) アンケート調査結果のまとめ

①都道府県・市を対象としたアンケート

- ・本年度調査において回答を得た 411 自治体における、昨年度の交通環境学習の実施状況は 35.5%であった。昨年度は実施していないものの、これまでに実施したことがある団体もあわせると、交通環境学習の実施経験のある団体は 49.6%となり、昨年度調査に比べ 3.7pt 減少した。
- ・交通環境学習を継続的に実施できる理由として、「自治体の方針や計画に位置づけられている」との回答割合が昨年度より 7.4pt 上昇し、47.8%であった。
- ・交通環境学習の効果としては、「公共交通の利用促進・利用者増」を挙げている団体が最も多い結果であった。
- ・昨年度交通環境学習に取り組んでいない団体における取組まなかった理由としては、「担当部課の人手不足」を挙げた団体が最も多く、次いで「取組方法が分からない」、「教材の作成や準備が大変」といった理由であった。
- ・今年度の交通環境学習への取組としては、取り組む予定である自治体が 25.8%であるものの、そのうち半数の自治体が、新型コロナウイルスの影響により取組内容の変更や中止を検討していると回答した。
- ・新型コロナウイルスの影響により、当初の取組方法とは異なる方法での実施を検討している自治体では、グループ学習から個別学習へ変更したり、バス試乗のプログラムを一部中止したりする等の工夫が挙げられた。
- ・新型コロナウイルスの影響により授業が縮小されている中でも交通環境学習を実施する理由としては、「自治体として公共交通の利用促進を図るため」を挙げている団体が最も多い結果となった。なお、その他の意見として「コロナ禍で利用が減少している公共交通の利用促進を図るため」といった意見も見られた。
- ・例年交通学習を実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した理由としては、「3密対策の取組のため全校生徒・全学年を集めた授業が難しいため」「全体的な授業数が減っており、他の教科の学習を優先する必要があるため」が多く挙げられた他、「バスまつりなど、イベント自体が中止になったため」といった回答が得られた。
- ・交通エコモ財団が提供する交通環境学習に関する教材の認知度は、手引書、教材・事例・プログラムともに低いことが明らかとなった。
- ・交通環境学習に取り組んでいく上での課題や障壁としては、「教材の準備などが大変」、「具体的な取組内容がわからない」等において多くの回答が得られた。なお、教材の形式に対する要望としては、「動画やクイズ」の件数が 6 件と最も多く、教材の形式について今後検討が必要と思われる。
- ・交通環境学習に取り組んでいく上で予想される問題点として、「感染防止対策と学習の両立」や「新しい生活様式に即した公共交通の利用への転換が求められている」等の意見が挙げられており、新型コロナウイルスにより交通を取り巻く状況が変化していく中で、今年度交通環境学習を実施した団体の事例等を収集し、次年度以降の参考としていくことが重要であると考えられる。

②教育委員会を対象としたアンケート

- ・回答のあった教育委員会（95件）が所管する小学校での交通環境学習の実施状況について、取組実績ありは53.7%であり、昨年度調査から14.7pt増加した。
- ・教育委員会が考える交通環境学習の効果としては、「公共の場でのルールやマナーを身に着けることができる」が最も多かった。今年度調査にて追加した選択肢「改定後の学習指導要領の内容に沿った学習ができる」は5.9%であった。
- ・交通環境学習に取り組んでいく上での課題や障壁としては、「授業時間の確保が難しい」が最も多く、次いで「教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない」、「適切な教材を準備することが難しい」が挙げられ、昨年度とほぼ同様の結果となった。自治体のみならず、教育委員会からも人や教材に関する課題が挙げられた。
- ・交通エコモ財団が提供する交通環境学習に関する教材の認知度については、教育委員会においても低いことが明らかとなった。エコモ財団が提供する教材に対する改善策としては、「学習指導要領との関連をより詳細に記載する」が最も多く、次いで「図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする」、「学習による効果を詳細に掲載する」であった。
- ・導入もしくは導入を検討されているデジタル機器としては、86.3%の教育委員会が「児童・生徒用タブレット端末」を回答しており、今後、タブレット端末に対応した教材（例えば自治体アンケートで要望が多かった動画教材等）を開発することで、教育現場における交通環境学習教材の普及に繋がる可能性がある。

（2）今後の課題

- ・交通環境学習に取り組んでいく上での課題として、都道府県・市、教育委員会いずれにおいても、実施方法や教材に関する情報不足が挙げられた。また、エコモ財団で提供している教材についての認知度は依然として低く、動画教材等デジタル機器やパワーポイントに対応した教材の更新とともに、こうした教材の周知を図ることで、教育現場の負担軽減にも繋がると考えられる。
- ・今年度の交通環境学習の実施状況としては、新型コロナウイルスにより取組内容を変更せざるを得なくなったり、例年実施していたイベントが中止になったりする等の影響が見られた。今後、新たな生活様式による公共交通の利用方法の変化や、テレワークの拡大による公共交通の縮小の可能性を踏まえると、公共交通利用時の感染防止対策やアフターコロナでの公共交通との関わり方を学習内容に取り入れていく必要が考えられる。
- ・教育委員会向けアンケートについて、前年度に引き続き回答率を上げるため選択式の設問を中心に設問を作成したが、回答率は前年度とほぼ同程度であった。今後も配布・回収時期の見直しも含めて回答率の向上について検討する必要がある。

参考 1. 自治体向け アンケート調査票

①昨年度取組が確認された自治体向け

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、令和元年度実施アンケートで交通環境学習に取組んだと回答された自治体にお送りしています。

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、取組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。

なお、教育委員会にも同様のアンケートを配布しています。

交通環境学習ポータル
サイト QRコード



■回収の期日

アンケートは、**10月30日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信

【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■ 貴自治体での令和元年度の「交通環境学習」の実施状況について

問 1 貴自治体では昨年度（令和元年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）
※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →副問 1.1へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問 1.2へ

副問 1.1 問 1で「1」とお答えの方にお伺いします。
「交通環境学習」を継続的に実施できる理由は何ですか？（いくつでも）

1. 効果が期待できる
(具体的に期待している効果は何ですか：)
2. 学校や市町村、交通事業者等が主体となって実施している
3. 学校からの要請がある
4. 自治体の方針や計画に位置づけられている
5. その他（具体的に：)

→副問 1.1 のあとは、問 2 へ

副問 1.2 問 1で「2」とお答えの方にお伺いします。
昨年度、「交通環境学習」を実施しなかった理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果が分らない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に：)

→副問 1.2 のあとは、4 ページの問 4 へ

問 2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問 2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問 2.1 (1)で「1」とお答えの方にお伺いします。
授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や市町村、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に：)

(2) それは、学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

具体的に：

副問 2.2 (2) でご回答いただいた方にお伺いします。

(2) でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や市町村が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____)

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習（座学）					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習（体験型）					
その他	（具体的に： _____)					
	（具体的に： _____)					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」について

問 4 今後の「交通環境学習」の取組みについてお伺いします。

(1) 今年度（令和2年度）、「交通環境学習」に取組む予定はありますか？（1つに○）

1. 取組む予定である →副問 4.1 へ
2. 取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により当初の計画とは異なる方法で実施する
→副問 4.1 へ
3. 取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により中止も考えられる →副問 4.1 へ
4. 取組まない →次ページ副問 4.3 へ
5. わからない →次ページ副問 4.3 へ

副問 4.1 (1)で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

今年度の「交通環境学習」は、どのような方法で取組む予定ですか。当初の計画とは異なる方法で実施する場合、当初の計画についても教えてください。

(例) バスマつりでバスの乗り方教室を実施する予定であったが、DVDを用いた座学に変更した

→副問 4.2 もご回答ください。

副問 4.2 (1)で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

新型コロナウイルスの影響で、学校の授業・イベント自体が縮小されている中において、交通環境学習を実施する理由は何ですか？（いくつでも）

1. 身のまわりの交通に関する知識を学習するため
2. 自治体として公共交通の利用促進を図るため
3. 人や社会、環境にやさしい行動を取ることができる人材の育成を目指しているため
4. 他の教科では学習することができない内容・能力の強化が指せるため
5. 市町村・交通事業者等からの要請があったため
6. その他（具体的に： _____)

→6 ページ問5へお進みください。

副問 4.3 (1) で「4」「5」とお答えの方にお伺いします。

これまでの「交通環境学習」への取組について教えてください。(1つに○)

1. 例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した

→副問 4.4へ

2. 例年は実施していたが、今年度は取組まない(新型コロナウイルスの影響以外)
(理由:)

3. これまで実施したことがない

4. その他(具体的に:)

→ 6 ページ問5へお進みください。

副問 4.4 副問で 4.3 「1」とお答えの方にお伺いします。

新型コロナウイルスの影響により交通環境学習が実施できなくなった理由としては、どのようなものがありますか?(いくつでも)

1. 遠足、校外学習、修学旅行等がなくなり学校行事として公共交通を利用する機会がなくなったため
2. 3密対策の取組みのため全校生徒・全学年を集めた授業が難しいため
3. 接触機会削減の取組みのため外部から講師を招聘することが難しいため
4. 全体的な授業数が減っており、他の教科の学習を優先する必要があるため
5. 交通事業者等の協力を得られなかったため
6. その他(具体的に:)

→6 ページ問5へお進みください。

全員の方がご回答ください。

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

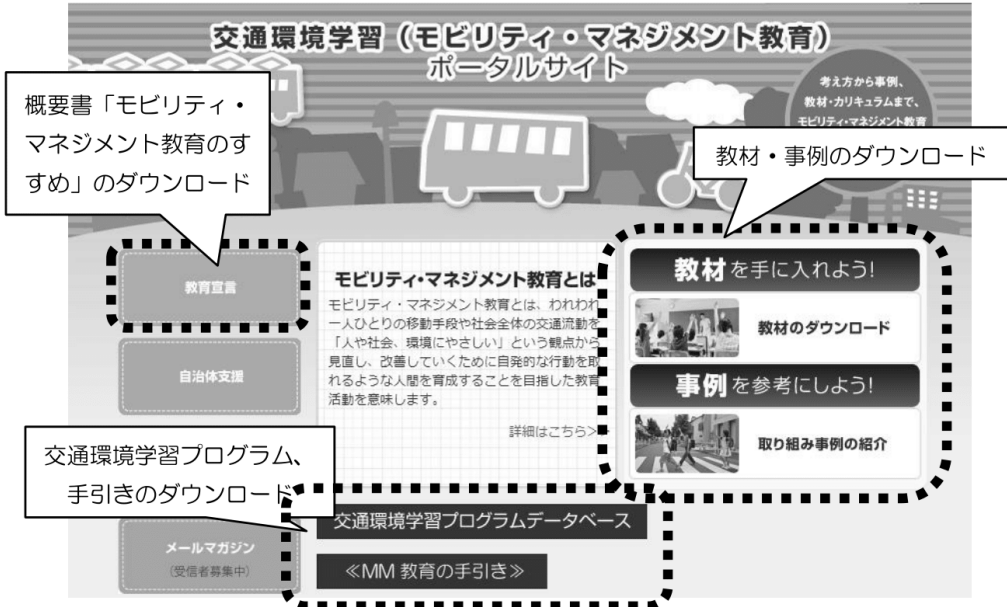
1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力を得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的な事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____)

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■ 教材・手引きの活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）から、交通環境学習の教材・事例や、手引き、データベース等入手することができます。



エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます
 交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
 (QR コードからアクセスできます)



<<本調査票に同封の資料>>



資料 1：交通環境学習手引き（概要版）
 ※本編は HP からダウンロードできます



資料 2：実践事例

問7 エコモ財団 HP から入手できる資料についてお伺いします。

(1) エコモ財団 HP で入手できる、「交通環境学習手引書」(本編または概要版)を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(2) エコモ財団 HP で入手できる、「教材・事例・学習プログラム」を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(3) 手引書、事例・教材、学習プログラムを使いやすく、より役立つものにするには、どのようにしたらよいと思いますか？エコモ財団 HP にてダウンロードできる PDF ファイル、本調査票に同封の資料 1、資料 2 を参考にご回答ください。(いくつでも)

1. 図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする
2. 掲載する教材・事例の数を増やす
3. 掲載する内容を厳選し、コンパクトにする
4. 学習指導要領との関連をより詳細に記載する
5. 学習による効果を詳細に掲載する
6. 関係者(自治体、交通事業者、学校)の調整方法の例を掲載する
7. 自治体の人口・公共交通等の状況から類似する地域の事例を探せるようにする
8. 実践した教員の反応・感想を掲載する
9. 児童・生徒、教員、保護者等の反応・感想を多く掲載する
10. その他(具体的に：)

問8 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

具体的に：

→質問は以上です。

最後にご回答者様についてご記入ください。

■ 貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名		担当部署			
氏 名		役 職			
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、10月30日（金）までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の自治体での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定するとともに、ご回答いただいた自治体の方には、本調査の集計結果や交通環境学習関連情報をご提供させていただきます。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

この調査票は、令和元年度実施アンケートで交通環境学習の取組が確認されていない自治体にお送りしています。

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、取組まれていない場合は、公共交通計画等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。

なお、教育委員会にも同様のアンケートを配布しています。

交通環境学習ポータル
サイト QRコード



■回収の期日

アンケートは、**10月30日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、
記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信

【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■ 貴自治体での令和元年度の「交通環境学習」の実施状況について

問 1 貴自治体では昨年度（令和元年度）に、「交通環境学習」を実施しましたか？（1つに○）

※学校からの依頼で行ったものや交通事業者や運輸局等の取組に協力して実施したものも含まれます。

1. 実施した →問 2へ
2. 過去に実施したことはあるが、昨年度は実施しなかった →副問 1.1へ
3. これまで実施したことがない →副問 1.1へ

副問 1.1 問 1で「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

(1)「交通環境学習」に取組む意向はありましたか？（1つに○）

1. 取組に向けて検討したが断念した
2. 関心はあったが検討しなかった
3. 関心もない

(2) その主な理由は何ですか？（いくつでも）

1. 取組方法がわからない
2. 担当部課の人手不足
3. 予算が確保できない
4. 効果がわからない
5. 学校の協力が得られない
6. 教材の作成や準備が大変
7. その他（具体的に： _____）

→副問 1.1 のあとは、4 ページの問 4 へ

問 2 昨年度、貴自治体で取り組まれた「交通環境学習」の実施方法についてお伺いします

(1)それは、学校の授業の一環として実施しましたか？

1. 実施した →副問 2.1へ
2. 実施していない →(2)へ

副問 2.1 (1)で「1」とお答えの方にお伺いします。

授業の実施主体をお答えください。（いくつでも）

1. 貴自治体が学校に依頼して実施
2. 自治体指定の共通カリキュラムを学校で実施
3. 各学校が独自カリキュラムで取組
4. 出前講座として学校からの依頼に対応
5. 国や市町村、交通事業者等が主体となり実施
6. その他（具体的に： _____）

(2) それは、学校の授業以外ではどのような形（フォーラム、バスまつりなど）で実施しましたか？

具体的に：

副問 2.2 (2) でご回答いただいた方にお伺いします。

(2) でご回答いただいた活動の実施主体をお答えください。(いくつでも)

1. 貴自治体が主体となり実施
2. 国や市町村が主体となり実施
3. 交通事業者が主体となり実施
4. その他（具体的に： _____ ）

問 3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？（枠内の該当する部分に○をご記入ください）

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習（座学）					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習（体験型）					
その他	（具体的に： _____ ）					
	（具体的に： _____ ）					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

■ 今後の「交通環境学習」について

問 4 今後の「交通環境学習」の取組みについてお伺いします。

(1) 今年度（令和2年度）、「交通環境学習」に取組む予定はありますか？（1つに○）

1. 取組む予定である →副問 4.1 へ
2. 取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により当初の計画とは異なる方法で実施する
→副問 4.1 へ
3. 取組む予定だが、新型コロナウイルスの影響により中止も考えられる →副問 4.1 へ
4. 取組まない →次ページ副問 4.3 へ
5. わからない →次ページ副問 4.3 へ

副問 4.1 (1)で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

今年度の「交通環境学習」は、どのような方法で取組む予定ですか。当初の計画とは異なる方法で実施する場合、当初の計画についても教えてください。

(例) バスマつりでバスの乗り方教室を実施する予定であったが、DVDを用いた座学に変更した

→副問 4.2 もご回答ください。

副問 4.2 (1)で「1」「2」「3」とお答えの方にお伺いします。

新型コロナウイルスの影響で、学校の授業・イベント自体が縮小されている中において、交通環境学習を実施する理由は何ですか？（いくつでも）

1. 身のまわりの交通に関する知識を学習するため
2. 自治体として公共交通の利用促進を図るため
3. 人や社会、環境にやさしい行動を取ることができる人材の育成を目指しているため
4. 他の教科では学習することができない内容・能力の強化が指せるため
5. 市町村・交通事業者等からの要請があったため
6. その他（具体的に： _____)

→6 ページ問5へお進みください。

副問 4.3 (1) で「4」「5」とお答えの方にお伺いします。

これまでの「交通環境学習」への取組について教えてください。(1つに○)

1. 例年は実施していたが、今年度は新型コロナウイルスの影響のため中止した

→副問 4.4へ

2. 例年は実施していたが、今年度は取組まない(新型コロナウイルスの影響以外)
(理由:)

3. これまで実施したことがない

4. その他(具体的に:)

→ 6 ページ問5へお進みください。

副問 4.4 副問で 4.3 「1」とお答えの方にお伺いします。

新型コロナウイルスの影響により交通環境学習が実施できなくなった理由としては、どのようなものがありますか?(いくつでも)

1. 遠足、校外学習、修学旅行等がなくなり学校行事として公共交通を利用する機会がなくなったため
2. 3密対策の取組みのため全校生徒・全学年を集めた授業が難しいため
3. 接触機会削減の取組みのため外部から講師を招聘することが難しいため
4. 全体的な授業数が減っており、他の教科の学習を優先する必要があるため
5. 交通事業者等の協力を得られなかったため
6. その他(具体的に:)

→6 ページ問5へお進みください。

全員の方がご回答ください。

問5 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 教育委員会の理解が得られない
2. 具体的な取組内容がわからない
3. 学校の協力が得られない（アプローチの仕方がわからない）
4. 交通事業者の協力を得られない
5. 期待した効果が得られない
6. 教材の準備などが大変
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 具体的な事例を知る機会が少ない
9. その他（具体的に： _____)

問6 今後、貴自治体において「交通環境学習」に取り組む場合に、予想される問題点や、支援して欲しい事柄などについて、具体的に教えてください。

具体的に：

■ 教材・手引きの活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）から、交通環境学習の教材・事例や、手引き、データベース等を入手することができます。


The screenshot shows the '交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）ポータルサイト' (Traffic Environment Learning (Mobility Management Education) Portal Site). Callouts point to various features:

- 概要書「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」のダウンロード** (Download the summary book 'Recommendations for Mobility Management Education')
- 教材・事例のダウンロード** (Download materials and examples)
- 交通環境学習プログラム、手引きのダウンロード** (Download traffic environment learning programs and manuals)
- メールマガジン（受信者募集中）** (Email magazine (recipients being recruited))
- 交通環境学習プログラムデータベース <<MM教育の手引き>>** (Traffic environment learning program database <<MM Education Manual>>)

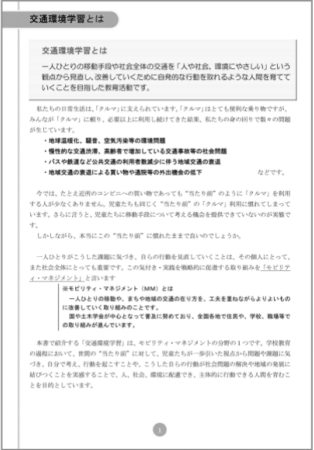
The main content area includes:

- モビリティ・マネジメント教育とは** (What is Mobility Management Education?)
- 教材を手に入れよう!** (Get the materials!) with sub-sections for '教材のダウンロード' (Download materials) and '事例を参考にしよう!' (Use examples for reference!) with '取り組み事例の紹介' (Introduction of implementation examples).
- 詳細はこちら>** (Details here >)

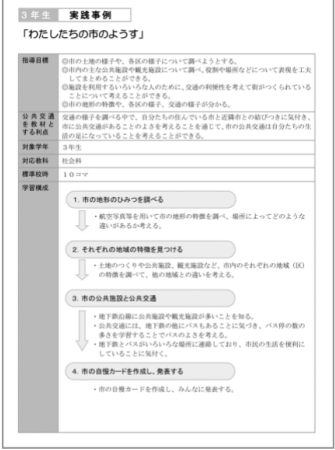
エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます
 交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
 (QRコードからアクセスできます)



<<本調査票に同封の資料>>



資料 1：交通環境学習手引き（概要版）
 ※本編は HP からダウンロードできます



資料 2：実践事例

問7 エコモ財団 HP から入手できる資料についてお伺いします。

(1) エコモ財団 HP で入手できる、「交通環境学習手引書」(本編または概要版)を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(2) エコモ財団 HP で入手できる、「教材・事例・学習プログラム」を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(3) 手引書、事例・教材、学習プログラムを使いやすく、より役立つものにするには、どのようにしたらよいと思いますか？エコモ財団 HP にてダウンロードできる PDF ファイル、本調査票に同封の資料 1、資料 2 を参考にご回答ください。(いくつでも)

1. 図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする
2. 掲載する教材・事例の数を増やす
3. 掲載する内容を厳選し、コンパクトにする
4. 学習指導要領との関連をより詳細に記載する
5. 学習による効果を詳細に掲載する
6. 関係者(自治体、交通事業者、学校)の調整方法の例を掲載する
7. 自治体の人口・公共交通等の状況から類似する地域の事例を探せるようにする
8. 実践した教員の反応・感想を掲載する
9. 児童・生徒、教員、保護者等の反応・感想を多く掲載する
10. その他(具体的に：)

問8 交通環境学習に用いる教材について、「こういったものが欲しい」「こういったものがあれば活用できる」等のご意見・ご要望があればご記入ください。

具体的に：

→質問は以上です。

最後にご回答者様についてご記入ください。

■ 貴自治体やご回答者について

- 本アンケートのご回答者 ※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

自治体名		担当部署			
氏名		役職			
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、10月30日（金）までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。

参考 2. 教育委員会向け アンケート調査票

「鉄道やバスなどを教材とした学習」に関する調査

ご協力をお願い

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団では、「学校と連携した交通と環境問題に関する授業や児童や生徒等を対象とした交通と環境問題に関する学習（以下、「交通環境学習」と記載します）」のより一層の普及を目的として、今年度も引き続き、全国の教育委員会での取組状況や課題等を把握するためのアンケート調査を実施することとなりました。

なお、集計結果は、交通環境学習ポータルサイト (<http://www.mm-education.jp/>) での公表を予定しています。（昨年度の結果はポータルサイトからダウンロードできます）

ご多用のところ誠に恐れ入りますが、何卒ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

「交通環境学習」とは？

「バス」や「鉄道」などを教材に用いた学習のこと。

交通環境学習の
授業内容例

- ・バスや鉄道の乗り方教室
- ・公共交通を題材とした地球環境問題の学習
- ・環境学習の一環としてのバス・電車を使った校外学習
- ・公共交通を題材としたまちづくり学習
- ・交通すごろく（すごろくゲームで交通と環境問題や渋滞との関係を学習）
- ・フードマイレージ（買物ゲームで輸送時の環境負荷を学習） など

■記入上のご注意

ご回答は、「交通環境学習」に取組まれた場合は、その内容をご存じのご担当者様、交通環境学習ポータル取組まれていない場合は、学校教育等の関係部署のご担当者様をお願いいたします。 サイト QRコード

なお、各自治体の公共交通関係部署にも同様のアンケートを別途実施しています。



■回収の期日

アンケートは、**10月30日（金）**までに、回答願います。

■調査票の回収方法（A～Cのいずれかの方法で返送ください）

A. インターネット

下記交通環境学習ポータルサイトにアクセス後、回答画面にて入力できます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>

B. FAX

記入後の調査票を **FAX 03-5791-1143** まで返信

C. メール

エコモ財団ホームページから調査票をダウンロードいただき、

記入後の調査票を **info@mm-education.jp** まで返信

【問い合わせ先】交通エコロジー・モビリティ財団（担当：岡本）／TEL 03-3221-7636

■調査会社（調査票の配布・回収）

社会システム株式会社（担当：野田）／TEL 03-5791-1133

■「交通環境学習」の取組み状況

問1 貴教育委員会が所管する小学校では、「交通環境学習」に取り組んでいますか？
(近いもの1つに○)

- 1. 全小学校で、交通環境学習を取り入れた授業を行っている
- 2. 一部の小学校で、授業にとり入れている
- 3. 今は取り組んでいないが、今後、授業にとり入れることは可能 →問4へ
- 4. 授業にとり入れることは難しい →問4へ

問2 「交通環境学習」には、どのような効果があるとお考えですか (いくつでも)

- 1. 住んでいるまちの理解が深まる
- 2. 住んでいるまちへの愛着が生まれる
- 3. 公共の場でのルールやマナーを身につけることができる
- 4. 地球環境への理解が深まる
- 5. 移動手段について考え、選択ができるようになる
- 6. バスや鉄道など、地域の生活や暮らしを支えている人がいることへの理解が深まる
- 7. 地域や社会、他の人のことを考えて、自分自身の行動を選ぶことができるようになる
- 8. 改訂後の学習指導要領の内容に沿った学習ができる
- 9. その他 (具体的に：)

問3 実施した「交通環境学習」の対象者と内容は？ (枠内の該当する部分に○をご記入ください)

内 容		対象者				
		小学生	中学生	高校生	大学生	その他
座学	バスや電車等の乗り方の座学					
	地球環境問題と交通に関する座学					
	バリアフリーに関する学習 (座学)					
体験型	バスや電車等の体験乗車・乗り方教室					
	交通すごろく※1					
	フードマイレージ※2					
	バリアフリーに関する学習 (体験型)					
その他	(具体的に：)					
	(具体的に：)					

※1 交通すごろく：すごろくゲームで、交通と環境の関係を学習

※2 フードマイレージ：買物ゲームで輸送時の環境改善を学習

問4 「交通環境学習」に取り組んでいく上での課題や障壁は何ですか？（いくつでも）

1. 授業時間の確保が難しい
2. 予算が足りない
3. 具体的な取組内容がわからない
4. 自治体や交通事業者の協力を得るのが難しい
5. 適切な教材を準備することが難しい
6. 自分たちの地域や交通に関するデータ（教材）を入手することが難しい
7. 進め方について相談できる窓口がない
8. 教育現場に新しい取り組みを行う余裕がない
9. 具体的事例を知る機会が少ない
10. その他（具体的に： _____)

■ 教材・手引きの活用状況について

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団のホームページ（以下、エコモ財団 HP）から、交通環境学習の教材・事例や、手引き、データベース等を入手することができます。

交通環境学習（モビリティ・マネジメント教育）ポータルサイト

概要書「モビリティ・マネジメント教育のすすめ」のダウンロード

教材・事例のダウンロード

教材を手に入れよう！

- 教材のダウンロード
- 事例を参考にしよう！
- 取り組み事例の紹介

データベースの閲覧、手引きのダウンロード

交通環境学習プログラムデータベース

＜MM教育の手引き＞

エコモ財団が公開している教材・事例は、下記 HP からご覧いただけます

交通環境学習ポータルサイト <http://www.mm-education.jp/>
(QRコードからアクセスできます)

<<本調査票に同封の資料>>

交通環境学習とは

交通環境学習とは、一人ひとりの移動手段や社会全体の交通を「人や社会、環境にやさしい」という観点から見直し、改善していくために自発的な行動を促せるような人間を育てていくことを目指した教育活動です。

私たちの日常生活は、「クルマ」に支えられています。「クルマ」はともなにも便利な乗り物ですが、あまりにも「クルマ」に頼り、必要以上に利用し続けてきた結果、私たちの身の回りや地球の環境が支えられています。

- ・地球温暖化、騒音、大気汚染等の環境問題
- ・個別の交通渋滞、通勤や通学で発生している交通環境の社会的問題
- ・人や社会や自然環境との調和のとれた持続可能な社会の実現
- ・地域交通の発展による買い物通学等の生活の向上

今では、たとえ近距離のワンゼーへの買い物であっても「ワンゼー」のように「クルマ」を利用する人が少なくありません。戻家たちも同じく「ワンゼー」の「クルマ」利用に慣れてしまっています。さらには言うところ、戻家たちの移動手段について考える機会を創出できないのが現状です。しかしながら、本当にこの「ワンゼー」に頼りたままではいけません。

一人ひとりがこうした課題に気づき、自らの行動を見直していき、その結果として、また社会全体の上でも必要です。この見直し・実践を継続的に推進する取り組みを「交通環境学習」といいます。

「モビリティ・マネジメント（MM）」とは、一人ひとりの移動手段、まちや地域の交通のあり方を、工夫や実践がよりよいものになるように促す取り組みです。

「交通環境学習」は、実践が目的であり、実践を通じて、学校、職場等で実践が促されています。

本調査票に同封の「交通環境学習」は、モビリティ・マネジメントの取り組みの一つで、学校での実践において、実践が「ワンゼー」に対して、戻家たちが多岐にわたる実践の場面で実践し、自分自身も、行動を起こすこと、こうした自らの行動が社会全体の交通環境の向上に繋がっていることを実感すること、人、社会、環境にやさしい、持続可能な社会の実現を促すことを目指しています。

3年生 実践事例

「わたしたちの市のようす」

実践目標

- ①市の土地の様子や、各町の様子について調べる。
- ②市内の主な公共施設や観光施設について調べる。観光や施設などについて表現を工夫してまとめることができる。
- ③施設を利用するいろいろな人のために、交通の利便性を考えて取り組むことができる。
- ④市の地形の様子や、各町の様子、交通の様子を調べる。

学習内容

交通の様子を調べる中で、自分たちの住んでいる市と近隣の市との違いや公共施設、公共の交通機関があることなどを考えることを通じて、市の公共施設や公共の交通の様子について考えることができる。

学習成果

1. 市の地形のひみつを探る
 - ・航空写真等を用いて市の地形の特徴を調べ、調べるによってどのような形があるかを知る。
2. それぞれの地域の特徴を見つける
 - ・上野や上野公園や公共施設、観光施設など、市内のそれぞれの地域（区）の特徴を調べ、市の地形上の違いを知る。
3. 市の公共施設と公共交通
 - ・地下鉄の駅に公共施設や観光施設が多いことを知る。
 - ・公共施設には、必ず駅周辺に多いことを知る。バス停の数の多さを調べることでその理由を知る。
 - ・地下鉄とバスがいろいろな場所に運行しており、市民の生活を便利にしていることを知る。
4. 市の自慢の公共交通機関を調べる
 - ・市の自慢の公共交通機関を調べる。

資料1：交通環境学習手引き（概要版）
※本編はHPからダウンロードできます

資料2：実践事例

問5 エコモ財団 HP から入手できる資料についてお伺いします。

(1) エコモ財団 HP で入手できる、「交通環境学習手引書」(本編または概要版)を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(2) エコモ財団 HP で入手できる、教材・事例を見たことがありますか？(1つに○)

1. 見たことがあり、活用している
2. 見たことはあるが、活用していない
3. 見たことはない

(3) 手引書、事例・教材、学習プログラムを使いやすく、より役立つものにするには、どのようにしたらよいと思いますか？エコモ財団 HP にてダウンロードできる PDF ファイル、本調査票に同封の資料 1、資料 2 を参考にご回答ください。(いくつでも)

1. 図や写真を多く挿入し、直感的にわかりやすくする
2. 掲載する教材・事例の数を増やす
3. 掲載する内容を厳選し、コンパクトにする
4. 学習指導要領との関連をより詳細に記載する
5. 学習による効果を詳細に掲載する
6. 関係者(自治体、交通事業者、学校)の調整方法の例を掲載する
7. 自治体の人口・公共交通等の状況から類似する地域の事例を探せるようにする
8. 実践した教員の反応・感想を掲載する
9. 児童・生徒、教員、保護者等の反応・感想を多く掲載する
10. その他(具体的に：)

■ 教育機器の活用状況について

問6 学習のデジタル化として貴教育委員会で導入（もしくは導入を検討）されており、交通環境学習への活用が期待される機器はありますか？（いくつでも）

1. 児童・生徒用コンピュータ
2. 児童・生徒用タブレット端末
3. 電子黒板
4. その他（具体的に： _____ ）

問7 交通エコロジー・モビリティ財団が調査した結果、公共交通を教材に用いた「交通環境学習」に取り組む小学校は、全国で少しずつ増えています。
また、教育委員会と自治体が連携して「交通環境学習」の教育的効果を考え、授業に活かしている地域もあります。

貴教育委員会としては、「交通環境学習」を普及・推進することに対して、どのように思われますか。

具体的に：

● 本アンケートのご回答者をご記入ください

※不明点などについて、お問い合わせさせていただく場合があります。

教育委員会名					
回答者の氏名			所属部署・役職		
TEL		FAX		e-mail	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。
アンケートは、10月30日(金)までに、
インターネット、メール、FAXのいずれかで返送願います。